

# 【第1号議案】(報告事項)

## 平成30年度事業報告に関する件 (平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

### I. 事業の状況

伊藤吾朗会長のもと、産官学連携の強化、会員拡大・ユーザー企業勧誘、人材育成(ダイバーシティを含む)、グローバル化、マルチマテリアル化への対応などをキーワードとする持続的な研究・技術開発活動、講演大会・シンポジウム・会誌出版など事業活動、国際交流活動など魅力ある学会を目指した活動を実施した。総合計画委員会内に会員増強WGを設置し、会員拡大策を検討した。平成26年度より開始した二次加工業界の多くを占める中堅企業の技術開発を支援する「中堅企業R&D支援プログラム」は5年目を迎え、各支部において、無料講習会・セミナー、研修会、見学会、企業奨励賞表彰などの行事を活発に行い、会員サービス向上による会員基盤増強を推進した。また、電子化WGを設置し、出版物電子化を講演大会概要集から開始し、著作権財産権利用に関する課題検討を開始した。春秋講演大会においては講演発表充実を目的に、第135回秋期大会から3日制を採用し、概要集電子版ダウンロードサービス、優秀英語ポスター発表も開始した。また、ユーザー企業参加、企業・学生交流促進策として、「軽金属企業研究会」と題して熱交換器に関する企業セッション、日本アルミニウム協会賞受賞企業の招待講演、学生向け企業紹介を実施した。人材育成については大学オープンキャンパスへの軽金属製品供与・貸与事業を自動車フード、エンジンシリンダブロックなど大型製品貸与も追加して、今期も実施し、小中高生、教師、父兄への軽金属製品啓蒙を行った。また、学生会員の就職支援事業として、昨年掲載開始したWEB上のライトメタルリクルートサイトに維持会員企業25社の採用情報を提供した。さらに、日本アルミニウム協会のインターンシップ募集企業一覧サイトに本学会維持会員企業の掲載可能とした。また、4月に設置した男女共同参画委員会では、男女共同参画学協会連絡会にオブザーバ会員入会し、他学協会の活動情報を入手するとともに、第136回春期大会での企業、大学、他学会での男女共同参画取組紹介のセッション開催を決定し、HPに女性比率データ掲載した。国際交流事業は、2022年のICAA(International Conference on Aluminum Alloys)18誘致が決定し、運営体制検討を開始した。また、「環境とエネルギー」をテーマとするALMA(Asian Light Metals Association) Forum 2018 & Meetingを第135回秋期講演大会会期中に開催した。この他、材料系他学会と連携し、6月に国際交流ワークショップ「材料系学協会における国際交流活動の課題と展望」を開催、9月には会誌「軽金属」にミニ特集「軽金属学会の国際化」として、会員の海外留学・在外研究、海外赴任など体験記を掲載し、12月には国内外の産学連携の仕組み、事例を紹介する軽金属国際ワークショップ「Meet Fraunhofer! ~日独の産学連携最前線:マルチマテリアル接合~」を開催し、欧州最大の応用研究機関であるフラウンホーファー、新構造材料技術研究組合(Innovative Structural Materials Association、略称:ISMA)のマルチマテリアル接合事例を紹介した。研究開発活動は4部会(高強度材、高温材料特性、リサイクル、耐火物)を加え、20研究部会が活発な活動を展開した。最終年度を迎えた13研究部会は6部会が後継部会設置、5部会が1年延長、2部会が終了となり、次年度は新規部会(ミルフィーユ)を加え、19部会が活動することとなった。学会誌「軽金属」では論文投稿の促進策として、投稿勧誘制度(春秋講演大会講演で勧誘を受け、6か月以内に投稿した場合に投稿掲載料を無料とする)や研究ノートから速報論文へのカテゴリー変更を開始した。シンポジウムにおいては自動車、表面処理、3Dプリンタ、資源循環などを取り上げ、話題提供を行った。また、マグネシウムに関するセミナー「マグネシウム合金の基礎技術」を開始し、燕三条、東大阪などマグネシウム材料の研究開発が活発な地域で開催した。本部企画の見学会も再開し、ヤマハ発動機(株)、川崎重工業(株)兵庫工場を見学した。前年度更新した学会HPは各種イベント内容紹介、研究部会設置・入会案内、英語HP内容充実など情報発信強化、利便性向上を図った。

### [1]研究会、学術講演会等の開催(定款第4条第1項第1号)

#### 1. 春秋講演大会の開催

##### 1) 第134回春期大会

会期	:平成30年5月26日、27日	
会場	:熊本大学 黒髪南キャンパス	
実行委員長	:河村能人(熊本大学)	
定時総会	:平成30年5月26日	
研究発表講演	:平成30年5月26日、27日	155件発表
ポスターセッション	:平成30年5月26日	51件発表
表彰式	:平成30年5月26日	
懇親会	:平成30年5月26日(ホテルメルパルク熊本)	
機器・カタログ展示	:平成30年5月26日、27日	9社参加
軽金属企業研究会	:平成30年5月26日	7社参加

##### 2) 第135回秋期大会

会期	:平成30年11月9日、10日、11日	
会場	:芝浦工業大学 豊洲キャンパス	
実行委員長	:青木孝史朗(芝浦工業大学)	
研究発表講演	:平成30年11月10日、11日	175件発表
ポスターセッション	:平成30年11月10日	82件発表(日本語70件、英語12件)
表彰式	:平成30年11月9日	
懇親会	:平成30年11月10日(芝浦工業大学 カフェテリア)	

機器・カタログ展示 :平成30年11月10日、11日 13社参加

軽金属企業研究会 :平成30年11月10日 12社参加

## 2. シンポジウム、セミナー等の開催

	名 称	開催平成年月日	開催場所	参加者数
1	国際交流ワークショップ 「材料系学協会における国際交流活動の課題と展望」	30年6月6日	日本アルミニウム協会	20名
2	第107回シンポジウム「自動車用電動パワートレインの将来展望とそれを支える軽金属技術」	30年6月8日	日本大学駿河台キャンパス	61名
3	第108回シンポジウム「知っているようで知らない軽金属の表面処理」～陽極反応による表面の制御～	30年6月22日	工学院大学新宿キャンパス	23名
4	軽金属基礎技術講座「アルミニウムの製造技術」	30年9月20、21日	つま恋リゾート彩の郷	47名
5	第109回シンポジウム「軽金属研究者・技術者のための3Dプリンタ科学・技術・造形事例」	30年10月5日	千葉工業大学 津田沼キャンパス	42名
6	第35回軽金属セミナー「マグネシウム合金の基礎技術」	30年10月25日	燕三条地場産業振興センター リサーチコア	21名
7	第32回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—入門編(状態図と組織)」第8回	30年11月2日	日本大学駿河台キャンパス	21名
8	第35回軽金属セミナー「マグネシウム合金の基礎技術」	30年11月26日	大阪府立大学 I-site なんば	45名
9	軽金属国際ワークショップ「欧州 Fraunhofer による産学連携の仕組み及び最新の応用研究」	30年12月7日	ドイツ文化会館	47名
10	第33回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—中級編(時効析出)」第7回	31年1月11日	千葉工業大学 津田沼キャンパス	31名
11	第34回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—応用編(加工・熱処理による組織変化)」第5回	31年2月1日	工学院大学新宿キャンパス	26名
12	第110回シンポジウム「資源循環の世界潮流と最新動向及び軽金属分野の課題と展望」	31年2月8日	日本大学駿河台キャンパス	23名

## [2]国内外における研究協力・連携の推進(定款第4条第1項第2号)

### 1. 国際交流

#### 1) ICAA(International Conference on Aluminum Alloys)

平成30年6月17日-21日にカナダモントリオールで開催されたICAA16の国際委員会で日本代表国際委員:東京工業大学・熊井真次教授、同:(株)UACJ(現 産業技術総合研究所)・田中宏樹氏、ICAA18準備WG:松田健二主査(富山大学教授)による誘致プレゼンテーションを行い、2022年の日本(富山)開催が決定した。ICAA18準備WGで、日程:第1候補9月4-8日、第2候補6月12-16日、会場:富山国際会議場、ANAクラウンプラザホテル富山を内定し、2019年10月のキックオフに向けて、ICAA18組織委員会、実行委員会案などを検討した。

#### 2) ALMA (Asian Light Metals Association) Forum 2018 & Meeting

平成30年11月9日-11日に芝浦工業大学豊洲キャンパスにて開催された第135回秋期大会と同時開催。

##### (1) ALMA Forum 2018

「環境とエネルギー」をテーマとし、日本、中国、韓国、台湾、オーストラリアから10名の報告があった。中国から2名のポスター発表も講演大会ポスターセッション会場で実施した。

##### (2)ALMA Meeting

次回2020年東京開催、各国とのMOU締結、2019年台湾でのAFLM2019開催について協議した。

#### 3)第14回軽金属国際ワークショップ「材料系学協会における国際交流活動の課題と展望」

6月6日に学協会国際交流ワークショップ「材料系学協会における国際交流活動の課題と展望」を開催し、本学会、日本学術会議、日本材料学会、日本金属学会、日本塑性加工学会、日本鋳造工学会、資源・素材学会から国際交流活動の現状について紹介した。総合討論では①国際機関などへの対応窓口の不在、②国際交流活動の重複・小規模・細分化、③日本独自の大規模な材料関係国際会議の不在、④日本の学協会の欧文誌の低迷などが議論され、①日本側の材料系学協会の窓口設置と世界への情報発信、②国際交流活動の国レベルのビジョン・戦略の策定と企画・実施、③日本独自の大規模材料系国際会議の創立・開催、④日本版材料系高級欧文誌の創刊などの、「統制的な活動」が提案、議論された。

#### 4)ミニ特集「軽金属学会のグローバル化」会誌掲載

「軽金属」9月号に会員の海外留学・在外研究、海外赴任など体験記、国際交流事例紹介や外国人寄稿など25報を集めたミニ特集を掲載した。

#### 5)第15回軽金属国際ワークショップ

10月31日、11月1日に、富山大学第4回先端材料研究フォーラムの共催行事として第15回軽金属国際ワークショップを開催した。

#### 6)第16回軽金属国際ワークショップ「Meet Fraunhofer! ~日独の産学連携最前線:マルチマテリアル接合~」

フラウンホーファー日本代表部の後援により、12月7日にドイツ文化会館にて開催した。近年注目されているマルチマ

リアル接合を選定し、ドイツのフラウンホーファーと日本の新構造材料技術研究組合(Innovative Structural Materials Association、略称:ISMA)の事例を紹介した。プログラムは以下の通りである。

- ①「フラウンホーファー研究機構の概要と日本における活動」 フラウンホーファー日本代表部 三木英哉氏
- ②「Strategic Aspects of Lightweight Materials and Processes」 Fraunhofer IFAM Bernd Mayer氏
- ③「Lightweight Technology: Surface Treatment, Assembly and Quality Assurance」  
Fraunhofer IFAM Christoph Regula氏
- ④「摩擦接合を利用した2つの新規接合方法の開発 -FSWとLFW」 大阪大学接合科学研究所 藤井英俊氏

## 2. 産学官の連携

経済産業省製造産業局金属課金属技術室室長 木原栄治様に第135回秋期大会懇親会にご臨席、ご挨拶賜り、当学会役員との意見交換を行った。また、参与会を2回開催し、第1回は7月26日に豊橋技術科学大学機械工学系界面・表面創製研究室(福本研究室)の摩擦攪拌接合(Friction Stir Welding)装置見学、「サステイナブル社会構築に向けた摩擦攪拌を用いる異種材料接合技術」、「傾斜化技術を利用した軽金属と異種材料の接合」紹介講演を実施した。第2回は11月28日に東金属産業株式会社の金属積層造形設備、造形事例見学、「アルミニウム3Dにおける最新適用事例と海外動向」講演を実施した。また、昨年に続き、国立研究開発法人産業技術総合研究所中部センター構造材料研究部門から研究開発事業に関する提言を求められ、本学会の研究部会との連携等々、要請した。

## 3. 日本アルミニウム協会との連携

日本アルミニウム協会主催により開催された産学懇談会に出席し、情報交換を行った。日本アルミニウム協会の研究助成事業の約 30 件の研究の大部分を講演大会で成果発表した。大学オープンキャンパスへの軽金属製品供与貸与事業にも参画いただき、子供向け学習教材「アルミなるほどミュージアム」冊子供与、自動車フード、エンジンシリンダブロックなど大型製品貸与の協力を得た。この他、2020 年発行の日本アルミニウム協会「アルミニウム技術戦略ロードマップ」改訂に参画し、軽金属学会「軽金属ロードマップ」の内容盛り込みを検討することとした。

## 4. 日本マグネシウム協会、日本チタン協会、軽金属溶接協会との連携

平成 27 年度より立ち上げたマグネシウム、チタン関連の研究部会を継続し、研究連携を実施した。チタン研究部会については、1 年延長を決めたが、そのあとの研究部会設置について、日本チタン協会内で設置可否を検討することとなった。日本マグネシウム協会には今年度開始したセミナー「マグネシウム合金の基礎技術」の講師派遣を依頼した。軽金属溶接協会は溶接・接合関連の若手研究者奨励のため、春秋大会ポスター発表に軽金属溶接協会からの表彰を実施し、溶接関係研究発表の合計 3 名が表彰された。また、2019 年 11 月 13-15 日に開催される INALCO2019(14th International Aluminium Conference)に協賛し、開催案内パンフレットの配布(春秋講演大会)、会員へ案内メール送信などを行った。

## 5. 他学術団体、業界団体との連携

日本学術会議材料工学連絡委員会、日本工学会等と連携を保つとともに、日本金属学会、日本鋳造工学会、日本鉄鋼協会、日本塑性加工学会、日本材料学会など、他学協会との研究発表、シンポジウムの共催、協賛、後援などの協力を積極的に行った。日本学術会議提言「材料工学から見たものづくり人材育成の課題と展望」について、本学会内では男女共同参画委員会を設置し、男女共同参画学協会連絡会にオブザーバ参加し、材料工学分野における女子学生、女性研究者・技術者の増加策、女性活躍を社会的に定着させるための方策などを継続検討した。

## [3]学会誌、学術図書等の刊行(定款第 4 条第 1 項第 3 号)

### 1. 会誌「軽金属」等の編集発行

本年度は、第 68 巻 4-12 号、第 69 巻 1-3 号までの 12 冊を、うち、第 68 巻 5 号は特集号「押出加工および鍛造を進展させる予測技術」～工程・工具設計のためのシミュレーション技術～、第 68 巻 11 号は特集号「水素と力学特性」、第 69 巻 1 号は特集号「革新的新構造材料等研究開発」(材料)、第 69 巻 2 号は特集号「革新的新構造材料等研究開発」(接合)、第 69 巻 3 号は特集号「時効析出の今昔」1 として刊行した。また、研究ノートを速報論文に区分変更した。掲載内容の分類は以下のとおりである。

区分	編数	区分	編数	区分	編数
巻頭言	6	連載講座	8	支部編集特集	33
研究論文	40	新製品紹介	3	はぐくむ	2
速報論文	4	随想	5	研究部会紹介	2
研究ノート	1	LM コラム	6	学会便り	17
解説	25	研究室/研究所紹介	1	支部便り	10
国際交流	27	維持会員紹介	1	私の一枚	6
年間レビュー	12	国際会議便り	10	掲載総数	219

### 2. 研究部会報告書の発行

今期終了した水素と力学特性研究部会の研究部会報告書を発行した。他の終了 7 部会は次年度に発行予定。

No.	名称	発行平成年月日
69	水素と力学特性研究部会報告書「水素と力学特性」	31 年 3 月 31 日

3. その他刊行物

名 称	発行平成年月日
第 134 回春期大会講演概要集	30 年 4 月 26 日
国際交流ワークショップ 「材料系学協会における国際交流活動の課題と展望」	30 年 6 月 6 日
第 107 回シンポジウム 「自動車用電動パワートレインの将来展望とそれを支える軽金属技術」	30 年 6 月 8 日
第 108 回シンポジウム 「知っているようで知らない軽金属の表面処理」～陽極反応による表面の制御～	30 年 6 月 22 日
第 109 回シンポジウム 「軽金属研究者・技術者のための 3D プリント科学・技術・造形事例」	30 年 10 月 5 日
第 135 回秋期大会講演概要集(冊子体、電子版)	30 年 10 月 10 日
軽金属国際ワークショップ 「欧州 Fraunhofer による産学連携の仕組み及び最新の応用研究」	30 年 12 月 7 日
第 110 回シンポジウム 「資源循環の世界潮流と最新動向及び軽金属分野の課題と展望」	31 年 2 月 8 日

[4] 研究及び調査の実施(定款第 4 条第 1 項第 4 号)

研究委員会は新設の「アルミニウム製造副産物のアップサイクル研究部会」、「中・高温域におけるアルミ合金の機械的特性に関する研究部会」、「アルミニウム溶湯による耐火物の損傷プロセス研究部会」、「高強度アルミニウム合金研究部会」の 4 研究部会を加えた 20 部会が活発な研究事業を実施した。WEB 上に各研究部会活動紹介を行い、部会活動の見える化を図った。春秋講演大会で水素と力学特性研究部会と異種材料接合・界面技術研究部会が企画したテーマセッションを実施した。多機能性材料研究部会は 3D プリント関連シンポジウムを実施した。また、最終年度を迎えた 13 研究部会は 6 部会が後継部会設置、5 部会が 1 年延長、2 部会が終了となり、新規部会(ミルフィーユ)も加え、次年度の設置準備を行った。

平成 30 年度の 20 研究部会の活動成果概要を下表に示す。

No.	部会名	課題	研究成果概要
1	高精度板成形シミュレーションの普及化検討研究部会  【開催期間】 平成 28 年 4 月 - 2020 年 3 月末	アルミニウム等軽金属材料の成形シミュレーションの材料モデルとパラメータの適正化による高精度化を行い、得られた知見の一般化を追及し、実用部品への適用も可能とする技術確立を進める。さらには、ソフト開発を視野に入れ、国プロへの提案を目指し研究開発を進める。	3 回(平成 30 年 5 月 21 日、9 月 25 日、12 月 10 日)の研究部会を開催。国際会議 NUMISHET2018(平成 30 年 7 月 31 日～8 月 3 日)を開催し、Benchmark3 として、結晶塑性解析からの当部会共通サンプルの降伏曲面と r 値の予測について出題し、海外からの回答を比較検証した。 ①共通サンプル 5052 の成形限界解析に及ぼす降伏関数の影響調査、結晶塑性解析による降伏曲面と引張試験値の予測、簡易試験法による等塑性仕事面の測定、各種成形試験金型でのシワ発生調査と FEM 解析による再現検証などを実施。 ②5022 材の異方性降伏関数を用いた穴広げ成形シミュレーションおよび球頭絞りシミュレーション、5052 材の結晶塑性解析に与える集合組織離散化方法の影響調査、部会共通サンプルを用いた角ダイス、円筒ポンチによるシワ発生試験および成形解析、外接多角形による降伏関数簡易同定法の数値解析的検証などを実施。
2	アルミニウムの再結晶集合組織形成モデル化研究部会  【開催期間】 平成 29 年 4 月 - 2021 年 3 月末	アルミニウムの再結晶集合組織形成のモデル化を中心として、塑性加工を施したアルミニウムの変形・再結晶集合組織予測モデルの構築とその実験的検証、および再結晶集合組織による成形性(曲げ性・深絞り性)の評価を行う。ただし、用いる塑性加工法は圧延に限定しない。	4 回(平成 30 年 6 月 25 日、8 月 30-31 日、12 月 5 日、平成 31 年 3 月 15 日)の研究部会を開催。8 月は変形・再結晶集合組織に関する広い知見を得ることを目的として、日本金属学会「金属・無機・有機材料の結晶方位解析と応用技術研究会」と日本鉄鋼協会フォーラム「多結晶材料の異方性の評価と予測技術」との共催で公開講演会を開催した。軽金属関連の発表は 8 件。 ①変形集合組織予測プログラムの骨格が完成し、再結晶集合組織予測プログラムへのデータ出力などを議論するとともに、再結晶集合組織予測プログラム構築に向けて、モデルの具体化や役割分担を検討した。合金種や加工法に応じたプログラム検証用データの収集を企業委員に依頼した。 ②変形集合組織予測プログラムにおける結晶方位のミラー指数表示から Bunge の Euler 角表示への変換式を議論した。再結晶集合組織予測 WG メンバーが決定し、モデル化案を確認した。 ③上記変換式の確認を行い、Bunge の Euler 角表示による入出力について検討した。使用する再結晶集合組織予測モデルを確定した。プログラム検証用データの取り纏め方について議論した。

3	<p>アルミニウム合金の熱処理技術とミュオン測定検討部会</p> <p>【開催期間】 平成29年4月-2021年3月末</p>	<p>ミュオンスピン緩和スペクトル法など最新の測定技術を駆使しつつ、熱処理において時効硬化型Al合金中に生ずる現象の正確かつ精密な把握と、その現象を最大限に生かしつつ、かつ低コスト化に効果的な熱処理技術、新規な熱処理手法を立案し、自動車、鉄道車両、航空機部材として利用可能な熱処理技術を確立することを目的とする。</p>	<p>3回(平成30年5月22日、10月16日、平成31年2月6日)の研究部会を開催。水素の挙動解析に向けて、正ミュオンのスピン緩和スペクトルとの対応と、Mg<sub>2</sub>Si が磁化率に対応するという新事実の工業的利用に向けた取組を推進し、ミュオンの挙動から、原子空孔の存在場所はほぼ決まりつつある。陽電子消滅法等と整合性の検討段階に入った。</p> <p>①ミュオンスピン緩和法による水素および原子空孔挙動の把握: Al-Zn-Mg合金の巨大反磁性を発現するクラスター、Al-Mg-Si-Cu合金の初期クラスター、Al中の水素トラップサイトに関するデータ収集。</p> <p>②磁化率測定の原子空孔挙動検出への応用: Al-Zn-Mg合金の巨大反磁性を発現する溶質元素濃度と熱処理条件に関するデータ収集。</p> <p>③電気抵抗測定による熱処理方法の考案: 電気抵抗率と機械的強度の時効効果に関するデータ収集。</p> <p>④第136回春期大会でテーマセッション「アルミニウム合金の熱処理に関連した最近の原子空孔・溶質クラスター・GPゾーン及び時効析出研究とその検出方法3」を計画し、基調講演3件、研究部会招待講演1件、一般講演23件をエントリーした。</p> <p>⑤ミュオン実験: RAL 採択課題 Early Stage Cluster Structure of Al-Mg-Si-Cu alloys、RAL 申請課題 Abnormally enhanced diamagnetism of Al-Zn-Mg alloys、J-PARC 申請課題 Hydrogen trapped sites in aluminum alloys studied by zero-field muon spin relaxation method</p>
4	<p>押出組織制御予測技術研究部会</p> <p>【開催期間】 平成27年4月-平成31年3月末</p> <p>後継部会設置: 押出材組織に起因する欠陥検討部会</p>	<p>日本の押出技術(製品・生産技術)の高度化と世界との差別化を目的に、組織予測を可能にする組織制御技術の研究し、バラツキ制御、難押出合金の押出条件の最適化を可能にし、製品の差別化に貢献する技術確立を行なう。</p>	<p>2回(平成30年10月3日、平成31年3月1日)の研究部会を開催。</p> <p>3大学(長岡技科大、千葉工大、日本大)と委託研究契約を継続し、調査研究を実施した。研究部会終了に伴う部会報告書発行は次年度中に実施する。また、後継部会として「押出材組織に起因する欠陥検討部会」設置を決定。</p> <p>①数値シミュレーションの組織予測との比較を行うための実験データ整理を進めた。各押出し温度での丸棒押出製品の半径方向の組織変化を統計処理してZパラメータとの関係など調査した。観察対象をA6063も追加して分析を始めることとした。</p> <p>②A7003 熱間押出で、中実丸ビレットから丸棒を作成して製品各部のEBSD分析、表面欠陥のマイクロ・ナノ分析を行った。押出し条件により塑性変形による組織微細化と動的再結晶が起こり、製品内の組織と機械的特性がビレットから大きく変化することが観察された。これを数値シミュレーションのひずみや温度の履歴との相関を調べ、製品組織粒径を予測する線図を作成することができた。</p>
5	<p>アルミニウム板圧延における表面欠陥研究部会</p> <p>【開催期間】 平成27年4月-平成31年3月末</p> <p>後継部会設置: アルミニウム板生産技術研究部会</p>	<p>アルミニウム板製品の表面欠陥についての分類から始まり、発生メカニズムの整理、防止策の検討や事例紹介、また、表面欠陥の検出技術についても議論検討しレベルの向上を図る。最終的には事例集を中心に報告書を作成する。</p>	<p>6回(平成30年5月25日、7月6日、9月21日、11月22日、平成31年1月18日、3月29日)の研究部会を開催。研究部会終了に伴う部会報告書発行は次年度中に実施する。また、後継部会として「アルミニウム板生産技術研究部会」設置を決定。</p> <p>①事例集の前書き部分(圧延加工・設備の概略説明及び表面欠陥が操業に与える影響)の内容協議とまとめ資料の担当分け実施。</p> <p>②部会報告書としての表面欠陥事例収集(24件の現象・仮説・対策のまとめ資料)を作成した。</p> <p>③参加各社の技術交流を深めるため、各社圧延工程の見学会を継続したが最終年の30年度は報告書作成を優先し未実施。令和元年度に計画する。</p>
6	<p>新エネルギー向け表面処理研究部会</p> <p>【開催期間】 平成27年4月-平成31年3月末</p> <p>1年延長決定</p>	<p>新エネルギー分野(太陽、風力、地熱、海洋、シェールガス、メタンハイドレート関連等)向けアルミニウム部材の表面処理について、耐食性、耐候性、耐摩耗性、等の比較調査を行ない、新機能付与の可能性も検討する。環境に配慮した非クロム系処理や自己修復機能を有する塗膜等の最</p>	<p>4回(平成30年4月18日、7月11日、10月17日、平成31年1月31日)の研究部会を開催。下記①、②、④、⑤試験が終了せず、研究部会1年延長を決定。</p> <p>①耐海水性試験(港湾空港研): 海水浸漬3ヶ月の結果報告。無処理の6061のみ孔腐。試験は継続中。</p> <p>②耐アンモニア性試験(佐賀大海洋研): 浸漬試験継続。168日目の結果では、表面処理材(PEEK、WINKOTE)の剥離は進展、陽極酸化は健全維持しており、表面処理間での優劣が確認できた。次回(開始後1年)目処に継続することとした。佐賀大学保有の模擬熱交換器に陽極酸化し、実機に近い運転下で熱交換性能を調査し、表面処理を行なった場合でもTiやSUSに対するAlの伝熱優位性が維持されるか検証する予定。</p> <p>③耐バイオ燃料性試験(モレスコテクノ): 試験後の表面状態を分析。無処理でも腐食しておらず、表面処理不要と判断。本検討は完了とした。</p> <p>④耐スケール性試験(北大・室蘭工大): 細孔サイズの異なる陽極酸化皮膜</p>

		新技術も検討する。	でスケール付着性の比較を開始。異なる陽極酸化皮膜間の比較で、ポア径とスケール量に相関性を示す結果が得られた(再現性あり)。ポア径を変更しメカニズム調査する。 ⑤海岸暴露試験(日本パーカー)を継続中。
7	水素と力学特性研究部会 【開催期間】平成27年4月-平成31年3月末 後継部会設置:アルミニウム中の水素と材料物性研究部会	原子状、分子状の水素が5000系、7000系アルミニウム合金の力学特性に及ぼす影響、およびこれらを制御することによる力学的特性改善法などを対象とする。情報交換を通じて力学的特性改善の実現を追求する。	2回(平成30年11月14日、平成31年3月19日)の研究部会を開催。研究部会報告者を発行した。また、後継部会として「アルミニウム中の水素と材料物性研究部会」設置を決定。 ①ものつくり大学総合機械学科西直美氏を招き、「アルミニウム合金ダイカストのガス欠陥の発生と対策」に関して討議を行った。また、部会長が「ブリスター生成のマイクロプロセス:分かっていることと分からないこと」と題する話題提供を行った。その他、数件の研究進捗報告を行った。 ②全部会員による最終的な研究成果の報告と討論、および研究部会の成果のまとめと総括、次期部会の課題などを議論した。 ③平成30年5月の第134回春期大会テーマセッション、会誌「軽金属」平成30年11月号に特集号で部会成果を公表した。
8	アルミニウムの凝固・微細化・清浄化研究部会 【開催期間】平成27年4月-平成31年3月末 1年延長決定	アルミニウムおよびアルミニウム合金の凝固組織の等軸晶化・微細化に関する改めての検討を通じて、微細化に寄与せずに介在物化するTiB <sub>2</sub> のメカニズム解明を行うとともに、介在物除去研究も行う事で、より高品質な製品製造に寄与する研究を行う。	3回(平成30年4月20日、9月10日、12月21日)の研究部会を開催。下記①、②試験が終了せず、研究部会1年延長を決定。 ①1000系の試験が終了した。3000系、6000系の研磨・エッチング・結晶粒度の評価が遅れている。 ②小型試験において、各種微細化剤の効果を検証した。冷却速度が大きすぎること、測定範囲内の凝固組織が不均一になり、結晶粒度の評価が難しくなった。対策として、鑄型の予備加熱温度をより高温に設定することとし、電気炉を手配した。 ③その場観察により、微細化剤添加時の凝固挙動の4D観察を実施した。
9	異種材料接合・界面研究部会 【開催期間】平成27年4月-平成31年3月末 後継部会設置:アルミニウム接着接合研究部会	異種金属、異種材料の新しい接合プロセス、接合材の組織と特性、接合メカニズムの基礎と応用を検討し、評価技術の確立ならびにデータベース化を推進する。	3回(平成30年6月13日、12月3日、平成31年3月19日)の研究部会を開催。後継部会として「アルミニウム接着接合研究部会」設置を決定。 ①異種材料接合に関する研究者から講演形式で以下の2件の話題を提供いただいた。「レーザブレイジング用いたアルミニウム合金とマグネシウム合金の異材接合」、「アルミニウム-樹脂射出接合継手の接合性評価」 ②異材接合法系統図、異材接合一覧表を作成し、部会報告書の構成、執筆分担、フォーマットについて大枠を決定した。 ③平成30年第135回秋期大会でのテーマセッション「先進的異種材料接合・界面技術」を開催した。 ④平成31年5月号特集「溶接・接合に関する最近の研究」を11月に延期した。掲載記事を研究部会報告書に掲載予定。
10	チタンの準安定相・析出相研究部会 【開催期間】平成27年4月-平成31年3月末 1年延長決定	チタン中の準安定相・析出相が形成される機構解明、微細組織および諸特性との関係に関する実験的研究、準安定相・析出相形成予測に関する計算材料学的研究を行い、準安定相・析出相制御を通してのチタンの高機能化と低コスト化の可能性を検討する。	3回(平成30年9月4日、12月11日、平成30年3月1日)の研究部会を開催。相安定性に関して、実験と計算の整合性の検討方法を明らかにし、低コストで優れた力学的・化学的特性を発現する合金を提案するため、研究部会の1年延長を決定。 ①α+β型グループでは最終的な合金設計の指針が示された。 ②計算グループではTi-V系およびTi-Nb系合金でのα,α',β,ω相の相安定性に及ぼす酸素添加の影響が示された。 ③β型グループではTi-V系合金の熱処理特性に及ぼす酸素添加の影響を明らかにした。 ④会誌「軽金属」に連載講座「チタンおよびチタン合金の基礎講座」全20回を掲載。
11	多機能性材料研究部会 【開催期間】平成27年4月-平成31年3月末	アルミニウムの特徴を活かした多機能材料としての可能性を拡大する。ポーラス化・複合化による課題解決方法、目標とする気孔形態、第二相形態をもつポーラス材料、複合材料の製造プロセスを検討する。	3回(平成30年9月14日、12月3日、平成31年3月1日)の研究部会を開催。研究部会終了に伴う部会報告書発行は次年度中に実施する。 ①放電プラズマ焼結による機能性アルミニウムの作製事例紹介。また、ラテックス構造体とポーラス金属の圧縮変形挙動の比較および変形挙動を模擬するためのFEM解析の現状報告と意見交換を行った。 ②平成30年10月5日に第109回シンポジウム「金属学研究者と技術者のための3Dプリンタ科学・技術・造形事例」開催。 ③平成31年3月1日に日本塑性加工学会 ポーラス材料分科会と合同で、第9回ポーラス材料研究討論会・「多機能性材料研究部会」研究討論会を開催。講演3件と学生のポスター発表7件。

12	<p>超音波鑄造研究部会</p> <p>【開催期間】 平成27年4月-平成31年3月末</p>	<p>凝固組織微細化効果のある超音波鑄造に関する創造的な研究の発展と早期実用化を図る。世界の研究動向と技術展開に関する知見を得て、装置構成、超音波ホーン要求仕様、超音波処理条件の最適化に向けた現象解明、各種合金に対する超音波効果、凝固組織変化に対する超音波効果の機構を検討する。</p>	<p>3回(平成30年6月5日、10月26日、平成31年2月22日)の研究部会を開催。研究部会終了に伴う部会報告書発行は次年度中に実施する。</p> <p>①超音波処理を利用した基礎現象(音響キャビテーション、物質移動、金属間化合物の形態変化)に重点を置いて、7件の報告を受け、活発なディスカッションを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「音響キャビテーションにおける広帯域ノイズ」</li> <li>・「水モデル実験から構築した半経験的数値モデルによるアルミニウム音響流シミュレーション」</li> <li>・「超音波による濡れ性改善」</li> <li>・「超音波処理中に見られる気泡振動現象に対する3次元流体シミュレーション」</li> <li>・「アルカリ土類金属からのソノルミネッセンス」</li> <li>・「音響放射力による固体粒子の制御とキャビテーション気泡の挙動」</li> <li>・「超音波照射によるアルミニウム合金中金属間化合物の形態制御とそのメカニズム解析」</li> </ul>
13	<p>異種金属接合部の腐食挙動予測研究部会</p> <p>【開催期間】 平成27年4月-平成31年3月末</p> <p>1年延長決定</p>	<p>車両・建材等の構造部材の鋼/アルミニウム、亜鉛/アルミニウムのような異種金属接合部の腐食挙動を予測する。</p>	<p>4回(平成30年7月5日、10月10日、12月20日、平成31年3月12日)の研究部会を開催。実験条件の不整合、電気化学的パラメータのデータベース不足のため、再実験、データベース整備が必要であり、研究部会の1年延長を決定。</p> <p>①アルミニウムやアルミニウム合金、炭素鋼の浸漬試験結果、SST、CCT試験結果について整理し、実験の再現正答の確認を行った。</p> <p>②アルミニウム・その合金/炭素鋼からなる異材接合材の浸漬の試験結果を再度検討し、腐食過程とその機構について検討した。</p>
14	<p>汎用型高性能マグネシウム合金研究部会</p> <p>【開催期間】 平成27年4月-平成31年3月末</p> <p>後継部会設置: 汎用型高性能・高信頼性マグネシウム合金研究部会</p>	<p>資源偏在性の少ない元素により構成される汎用マグネシウム合金を対象として、高強度・高延性、生産性、信頼性(腐食・接合性・難燃性等)を加味した合金設計指針の検討を行う。発火特性・室温成形性を改善するプロセス技術検討、計算科学を利用した合金設計法、プロセス予測法を検討する。</p>	<p>3回(平成30年6月22日、10月11日、平成31年1月24日)の研究部会を開催。後継部会として、軸力クリープと応力腐食割れを扱う「汎用型高性能・高信頼性マグネシウム合金研究部会」設置を決定。研究部会終了に伴う部会報告書発行は次年度中に実施する。</p> <p>①展伸材の研究 第135回秋期大会(テーマセッション)において発表を行い、その内容をベースに、これまでの研究の総括を行った。一部の合金については、対象とする合金単体での比較(曲げ試験条件を変えた試料の比較)を行い、他の合金については異種合金間の比較を行い、報告書を作製することを申し合わせた。また、以下のことを総括として申し合わせた。(1)150℃程度まで温度を上げると成形性が改善する主な理由として、柱面すべりの活発化が挙げられること、(2)各種非底面すべり系の活動を系統的に評価し、より低温で非底面すべり系が活動する手法を検討していくことが重要であること。</p> <p>②鑄造材の研究 第135回秋期大会(テーマセッション)において発表を行い、その内容をベースに、これまでの研究の総括を行った。その結果、AZ31合金及びAZX310合金鑄造材の組織・介在物の分布や形態・水素濃度・溶湯酸化膜組成と溶湯保持時間との関係を系統的に紐付けした上で、さらに、耐食性を評価した結果との結び付けを行うことを申し合わせた。</p> <p>③部会成果の外部発表 平成30年第135回秋期大会にてテーマセッション「汎用型高性能マグネシウム合金創製のための最新技術開発」開催。</p>
15	<p>冷間/熱間加工工程における組織形成予測部会</p> <p>【開催期間】 平成27年4月-平成31年3月末</p> <p>後継部会設置: 加工熱処理工程における動的/静的組織形成予測部会</p>	<p>我が国独自のアルミ製造技術に貢献できる材料組織形成シミュレーションの構築を目指す。加工中の動的組織変化および最終組織の機械的特性に影響を及ぼす一要因に挙げられる、高温変形過程における第二相粒子などの動的析出挙動についてのデータベース構築および動的観察技術</p>	<p>3回(平成30年6月13日、11月30日、平成31年3月28日)の研究部会を開催。後継部会として「加工熱処理工程における動的/静的組織形成予測部会」設置を決定。研究部会終了に伴う部会報告書発行は次年度中に実施する。</p> <p>①対象材(1050-1%Mn合金および4N-1%Mn合金)の熱間平面ひずみ圧縮における加工温度、ひずみ速度および熱処理温度が、再結晶および結晶粒成長の発現に及ぼす影響を調査し、データベースを構築した。また当該結晶変化に影響を及ぼすと推定される介在物の同定および動的析出挙動に関して、示差熱分析およびあいちシンクロトロン光センターにおける反射型XRD、透過型XRDおよび小角散乱法による定性分析、析出物サイズおよび体積率などの同定を目的とした測定手段を確立した。</p> <p>②対象材の冷間圧延および熱間圧延試験片の電子顕微鏡組織観察および透過XRDを実施し、加工条件が組織変化に及ぼす影響および金属間化合物の分散状況について調査し、これらが硬さなどの機械的特性に及ぼす</p>

		の可能性を模索する。	す影響についても検討がなされた。 ③金属材料の熱間流動応力を高精度に取得する材料試験および逆解析手法が提案され、流動応力に及ぼす温度、ひずみおよびひずみ速度の影響について検討された。 ④冷間多段圧延の結晶方位解析ならびに材料試験手法の確立について完了できなかった。後継部会において継続的に研究を行うとともに、商用有限要素解析コードにおけるユーザサブルーチンなどを用いたより汎用的な解析が可能となる手法の検討を進めたい。
16	アルミニウムのトライボロジー研究部会  【開催期間】 平成27年10月-平成31年3月末  1年延長決定	アルミニウム圧延でのロールコーティング生成におよぼす影響因子の解明を目的に、摩擦摩耗試験を用いた工具とAlの凝着現象研究や、純Al系材質とAl-Mg合金系材質でのロールコーティングの生成挙動の比較を行う。	3回(平成30年9月11日、12月5日、平成31年3月14日)の研究部会を開催。下記の概要の通り、一定の成果は得られた。R/Cの形成初期の状態観察はこれまでにない知見であるが、当初計画よりは進捗が不十分であり、設定課題解決のため、研究部会の1年延長を決定した。 ①R/C起点探索と成長状態: 圧延ロールへの脱着可能な駒を用いてR/Cの起点と成長状態を詳細観察した。まずは、基本的な状態観察として、鋳油のみを圧延油として使用した場合を確認した。R/Cの付着部は必ずしも圧延ロールの凸部だけではなく、凹部においても角(バリ)を起点とした成長が観察された。従来は圧延ロール表面の凸部よりR/Cが形成し始めるとされていたが、必ずしもそうでないことを明らかにできた。また、R/Cはバイトの最入側では薄くまだらに付着するが、出側ほど厚みが増加して付着物の一部が倒れ込んだ形状に変化した。 ②油種の違い: ①鋳油、②鋳油+油性剤(オレイン酸)、③鋳油+油性剤(エステル)を用いた圧延試験により、R/Cの付着量は、「多:①>③>②:少」となった。また、油性剤無の場合には油性剤有と比較してR/C付着量はバイト出側の方が入側よりも多かった。これは凝着状態(強さ)の差異によるものと考えられた。なお、油性剤有の場合の起点と成長の詳細観察は今後実施する計画である。 ③材質による生成挙動の差異: 進捗なし。
17	アルミニウム製造副産物のアップサイクル研究部会  【開催期間】 平成30年4月-2022年3月末	副産物の主成分である酸化物を安価で簡易に高純度化するアップサイクルプロセスを研究・議論し、耐火材原料やセメント原料等への市場開拓を実施する。	4回(平成30年4月19日、7月19日、10月29日、平成31年1月28日)の研究部会を開催。10月29日は日本アルミニウム協会ドロス委員会、ドロス協議会との第1回アルミニウムドロス合同会議を開催。 ①過去の副産物処理について調査し、燃焼プロセスではコスト的に困難であったことがわかった。 ②簡易で安価に副産物中の不純物を除去する方法としてオゾン水処理が提案され、所定条件化において窒化物由来の悪臭を発生させることなく副産物中の塩化物やフッ化物を除去できた。 ③東北大提案の新プロセスによりラボスケールにて集じん灰の湿式処理を悪臭無発生でほぼ達成した。そこでは金属Al、窒素、塩素、フッ素をそれぞれ1%以下まで除去できた。新プロセスにて発生する廃液を再度利用しても窒化物の分解速度にほぼ影響ないことを明らかにした。 ④秘密保持契約締結準備中。
18	中・高温域におけるアルミニウム合金の機械的特性に関する研究部会  【開催期間】 平成30年4月-2022年3月末	各種合金における100-400℃付近の温度における各合金の変形抵抗、特に成形時の高ひずみ速度における特性をデータベース化し、熱利用成形の普及を図る。	3回(平成30年8月27日、11月2日、平成31年1月24日)の研究部会を開催。 ①温間成形加工に必要な温間摩擦実験検討開始。 ②熱利用成形シミュレーション手法に必要なデータを板材・バルク材の二種類について検討するグループ分け・材料の設定を実施した。 ③現FEMにおいて検討可能な材料パラメータの抽出を行った。
19	アルミニウム溶湯による耐火物の損傷プロセス研究部会  【開催期間】 平成30年4月-2022年3月末	耐火物損傷プロセスを溶湯成分、耐火物種等から調査し、特徴を分離、データベース化し、耐火物・溶湯品質の改善に繋げる。	3回(平成30年4月17日、9月11日、平成31年1月22日)の研究部会を開催。材料の準備、試験および分析評価の分担を取り決め、実験を開始した。 ①耐火物の内部損傷(変質層)を実験的に作り出すことに成功し、溶湯の成分変化までを一通り調べることができた。 ②耐火物表層に形成される初期の変質が多結晶スピネル(MgAl <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )の形成に起因することを明らかにした。 ③文献紹介および実験を通じ、当該分野に係る知見の整理を行い、理解を深めることができた

20	高強度アルミニウム合金部会 【開催期間】 平成30年4月 - 2022年3月末	巨大歪み加工や合金組成制御した時効析出を利用したアルミニウム合金の高強度化技術を一元的に整理し、実用高強度合金の開発に資する基礎的知見として体系化する。	3回(平成30年5月23日、9月7日、平成31年3月4日)の研究部会を開催した。部会の運営方針、共通試料等に関するアンケートを実施した。 ①部会で扱う共通試料を Al-Cu-Mg-Cr 系、Al-Mg-Si-Cu-Cr 系、Al-Zn-Mg-Cu-Cr 系、Al-Fe-Cr 系の 10 種類に決定した。 ②学側委員の高強度材作製・特性評価手法に応じた共通試料作成中。 ③部会に参加する委員が有する高強度化技術の紹介を行った。
----	---	--	--

**[5]研究の奨励及び研究業績の表彰(定款第4条第1項第5号)**

1. 研究・業績の表彰

それぞれ選考委員会において選考を行い、理事会での承認を得て、(1)および(7)1)を平成30年5月開催の第134回春期大会にて、(2)~(5)および(7)2)を平成30年11月開催の第135回秋期大会にて表彰を行った。(6)については、平成31年2月末に表彰楯を各大学、高等専門学校へ送付し、卒業・修了など相応しい時期に表彰を託した。(9)軽金属学会企業奨励賞は各支部で表彰を行った。

(1)平成30年度軽金属学会賞・功労賞・功績賞表彰

前年度の軽金属学会賞・功労賞・功績賞選考委員会で選考され、理事会で承認された下記3名を表彰した。

- |                |                       |         |
|----------------|-----------------------|---------|
| 1)第21回軽金属学会賞   | 九州大学 主幹教授             | 堀田 善治 君 |
| 2)第20回軽金属学会功労賞 | 日本軽金属(株) 技術顧問         | 塩田 正彦 君 |
|                | 日本軽金属ホールディングス(株)常勤監査役 | 土田 孝之 君 |
|                | 元(株)UACJ 上席顧問         | 村松 俊樹 君 |
| 3)第16回軽金属功績賞   | 東北大学 教授               | 佐藤 裕之 君 |
|                | 東京工業大学 准教授            | 寺田 芳弘 君 |

(2)平成30年度軽金属論文賞・論文新人賞

廣澤渉一推薦委員長のもとで論文賞対象論文39編の内9編、新人賞対象論文14編の内5編の論文を推薦し、久保田正広選考委員長のもとで3編(11名)の論文賞、4名の新人賞を選考した。

1)論文賞

①「Mg/Si比と自然時効時間が異なるAl-Mg-Si合金のクラスタ形成と二段時効挙動の関係」

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
|                   | 第68巻3号(2018)133-140掲載 |
| (株)神戸製鋼所          | 有賀 康博 君               |
| (株)神戸製鋼所          | 小塚 雅也 君               |
| 東京工業大学(現:現代製鉄(株)) | 金 聖寧 君                |
| 東京工業大学            | 小林 郁夫 君               |
| 東京工業大学            | 里 達雄 君                |

②「6000系アルミニウム合金の冷間多軸鍛造と時効による微細組織変化と機械的特性向上」

- |          |                       |
|----------|-----------------------|
|          | 第67巻7号(2017)277-283掲載 |
| 豊橋技術科学大学 | 青葉 知弥 君               |
| 豊橋技術科学大学 | 小林 正和 君               |
| 豊橋技術科学大学 | 三浦 博己 君               |

③「Compressive Behavior of Open-Cell Titanium Foams with Different Unit Cell Geometries」

- |        |  |
|--------|--|
|        | Materials Transactions, Vol.58, No.11(2017)1587-1592掲載 |
| 首都大学東京 | 岳 学嶺 君   |
| 首都大学東京 | 松尾 慧司 君  |
| 首都大学東京 | 北園 幸一 君  |

2)論文新人賞

①「6000系アルミニウム合金の冷間多軸鍛造と時効による微細組織変化と機械的特性向上」

- |          |                       |
|----------|-----------------------|
|          | 第67巻7号(2017)277-283掲載 |
| 豊橋技術科学大学 | 青葉 知弥 君               |

②「ECAP加工と各種時効処理によるAl-Mg-Si系合金製高力ボルト素材の開発」第68巻2号(2018)65-72掲載

- |                         |         |
|-------------------------|---------|
| 横浜国立大学大学院(現 三菱マテリアル(株)) | 小畑 智靖 君 |
|-------------------------|---------|

③「高純度アルミニウム単結晶マイクロピラーの強度に及ぼす試験片寸法および形状の影響」

- |          |                       |
|----------|-----------------------|
|          | 第68巻5号(2018)250-256掲載 |
| 名古屋大学大学院 | 竹安崇一郎 君               |

④「グルコン酸や亜鉛イオンを含む模擬海水におけるA3003アルミニウム合金の腐食による形態変化とその機構」

- |                         |                     |
|-------------------------|---------------------|
|                         | 第68巻1号(2018)16-21掲載 |
| 北海道大学大学院(現 日本原子力研究開発機構) | 大谷 恭平 君             |

(3)第53回小山田記念賞

松田健二選考委員長のもと、応募技術1件について検討の結果、当該技術1件を選考した。

「アルミニウム中空ダイカストサブフレームの開発」

(株)本田技術研究所 朝見 明彦 君、今西 智之 君、福田 征秀 君  
 柳河精機(株) 岡崎 幸男 君  
 九州柳河精機(株) 川内 敦 君

(4)第 41 回高橋記念賞

荒木秀樹選考委員長のもと、各支部からの推薦 2 件について選考委員による書面審査の結果、2 名を選考した。

(株)UACJ 押出加工小山 稲葉 明彦 君  
 (株)神戸製鋼所 野原 正美 君

(5)軽金属奨励賞・躍進賞・女性未来賞

久保田正広選考委員長のもと、3 つの賞について審議し、躍進賞は応募 9 名の候補者のうち 3 名を、奨励賞は 2 名の候補者を、女性未来賞は 1 名の候補者を選考した。

- 1)第 17 回軽金属躍進賞 兵庫県立大学 足立 大樹 君  
 (株)神戸製鋼所 有賀 康博 君  
 日本軽金属(株) 鈴木 健太 君
- 2)第 36 回軽金属奨励賞 東北大学 安藤 大輔 君  
 大阪大学 趙 研 君
- 3)第 10 回軽金属女性未来賞 (株)UACJ 富野 麻衣 君

(6)平成 30 年度軽金属希望の星賞

各支部からの一次推薦 33 名について、総務委員会による二次選考の結果、33 名全員を選考した。

所 属	氏 名	所 属	氏 名
旭川工業高等専門学校専攻科	奥山 遥 君	宇都宮大学大学院	中島 友寛 君
室蘭工業大学大学院	榎本 峻汰 君	宇都宮大学大学院	猪狩 昂平 君
東北大学大学院	加藤 賢也 君	東京工業大学大学院	木村 慎吾 君
東北大学大学院	佐藤 直生 君	富山大学大学院	安元 透 君
芝浦工業大学大学院	嶋田 雄太 君	富山大学大学院	平木 智也 君
芝浦工業大学大学院	森 浩太郎 君	豊橋技術科学大学大学院	余田 悠輔 君
茨城大学大学院	鬼澤 海 君	名古屋工業大学大学院	鍵本 亮 君
茨城大学大学院	中島 迪久 君	大阪府立大学大学院	大手 里奈 君
茨城大学大学院	石井 努 君	兵庫県立大学大学院	大野 宏人 君
茨城大学大学院	秋篠 亮太 君	兵庫県立大学大学院	野々村壮紘 君
茨城大学大学院	蓼沼 宏樹 君	大阪大学大学院	桑内 彩里 君
千葉大学大学院	橘田 駿一 君	関西大学大学院	西田健太郎 君
千葉大学大学院	中村 晃貴 君	愛媛大学大学院	川野 颯太 君
群馬大学大学院	大槻 晃平 君	熊本大学大学院	城戸 優汰 君
群馬大学大学院	柏谷 悠太 君	九州大学大学院	池田 幸将 君
東京農工大学大学院	長井 圭祐 君	九州大学大学院	古賀 鈴 君
首都大学東京大学院	三浦汀桜子 君		

(7)優秀ポスター発表賞、優秀英語ポスター発表賞

本賞は春秋大会で行われるポスターセッションで発表した優秀者に贈る賞で、今年度は以下の通り春期大会で 10 名、秋期大会で 10 名を表彰した。第 135 回秋期大会より優秀英語ポスター発表賞を新設し、4 名を表彰した。

1)第 134 回春期大会

題 目	所 属	氏 名
共晶反応を利用した耐熱 Al 基鋳造合金の凝固組織とその高温安定性	名古屋大学(院)	岡野 大幹 君
Al-Mg-Si 合金における自然時効によるクラスタ形成過程の軟 X 線 XAFS 測定	兵庫県立大学(学)	田中 芹奈 君
ARB 法で超微細粒化した Al-Mg-Si 合金の時効処理による強度と延性の同時改善	横浜国立大学(院)	謝 宗宸 君
Mg-Zn-Y 系急速凝固合金の微細組織が破壊靱性に及ぼす影響	熊本大学(学)	西本 宗矢 君
Mg-Ce 合金単結晶の疲労試験	熊本大学(学)	井口 健斗 君
マグネシウム単結晶の非底面すべりに対するセリウムの影響	熊本大学(学)	林 昂佑 君
Gd 合金粉末を含む Mg 基複合材料の作製と磁気熱量効果評価	富山大学(院)	中村 直人 君
定負荷速度引張試験により測定した 2 元系アルミニウム固溶体合金のセレーション挙動	九州大学(院)	古賀 鈴 君
473K での時効処理を行った Mg-Zn 合金の微細組織観察	富山大学(院)	前田 朋克 君
強ひずみ加工された β 型チタン合金の平面曲げ疲労特性	工学院大学(院)	朝比奈 洋 君

2)第 135 回秋期大会

題 目	所 属	氏 名
電子ビーム三次元積層造形法で作製した TiAl 合金の特異バンド状組織が室温延性に及ぼす影響	大阪大学(院)	坂田 将啓 君
{332}<113>双晶に着目した変形機構制御による β 型チタン合金の疲労強度改善	大阪大学(院)	行 耕平 君
0.9 mass%NaCl 水溶液流動内におけるマグネシウム円管の腐食挙動	山梨大学(院)	折井 天悟 君
Al-Mg-Si 合金における異なる時効温度によるクラスタ構造変化の	兵庫県立大学(院)	野々村壮紘 君

軟 X 線 XAFS 測定	
アルミニウム中空構造体の高速高品質接合を可能とする反転摩擦攪拌接合の開発	大阪大学(院) 越智真理子君
蒸気コーティング及びスピコーティングを用いた難燃性 Mg-4Al-1Ca 合金上へのシラン/Mg(OH) <sub>2</sub> 耐食性複合皮膜の作製	芝浦工業大学(院) 宮下 智弘 君
A7050 アルミニウム合金の時効処理に伴う析出組織と硬さ変化に及ぼす二段時効の効果	東京工業大学(院) 佐野 悠太 君
3D 積層造形ポラスアルミニウムにおける塑性異方性とセル構造の規則度の関係	首都大学東京(院) 藤森 佑太 君
超高速衝撃荷重下におけるマグネシウム合金の変形挙動に及ぼす溶質イットリウムの影響	神戸大学(院) 藤田 直輝 君
水蒸気プロセスによる Al-Zn-Mg 合金上への耐食性皮膜の形成過程	芝浦工業大学(院) 森 浩太郎 君
英語: Al-5%Mg 合金の粒界脆性に及ぼす微量 Na および Zr の影響	大阪大学(院) 桑内 彩里 君
英語: The effect of natural aging combine with pre-strain on bake hardening response in Al-Mg-Si alloy	北海道大学(院) Sun Tianhang 君
英語: 縦型高速ダブルロールキャスト材から作製した高 Mn 3xxx アルミニウム合金板の機械的性質	東京工業大学(院) Nguyen Ha 君
英語: マグネシウムの生体内分解性に及ぼす溶質元素添加の影響	神戸大学(院) 干場 太一 君

(8) 令和元年度軽金属学会賞・功労賞・功績賞

伊藤吾朗選考委員長のもと、3 つの賞について審議の結果、学会賞は 2 名の候補者のうち 1 名を、功労賞は 3 名の候補者を、功績賞は 3 名の候補者をそれぞれ下記のとおり選考した。表彰は令和元年 5 月開催の第 136 回春期大会にて行われる。

- |                   |  |                               |
|-------------------|--|-------------------------------|
| 1) 第 22 回軽金属学会賞   | 東京工業大学教授   | 熊井 真次 君                       |
| 2) 第 21 回軽金属学会功労賞 | (一社)軽金属溶接協会専務理事<br>(国法)産業技術総合研究所副連携研究ラボ長<br>昭和電工(株)(現 喜多方軽金属(株)) | 相浦 直 君<br>田中 宏樹 君<br>照田 伸二 君  |
| 3) 第 17 回軽金属功績賞   | 大阪大学大学院工学研究科教授<br>富山県立大学工学部教授<br>九州大学工学研究院教授                     | 荒木 秀樹 君<br>鈴木真由美 君<br>戸田 裕之 君 |

(9) 平成 30 年輕金属学会企業奨励賞

本賞は平成 26 年度より支部表彰していたものを平成 28 年度より本部表彰とするもので、各支部における軽金属に関する研究、技術開発、商品開発等において優れた業績を残した維持会員に贈る賞で、下記の通り、支部推薦の 3 社を表彰した。

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| (株)ディ・ビー・シー・システム研究所 | 北海道支部 |
| (株)タムラエジア           | 関東支部  |
| ユーアイ精機(株)           | 東海支部  |

[6] その他、本学会の目的を達成するために必要な事業(定款第 4 条 1 項第 6 号)

1. 人材育成

本部において、昨年同様、大学オープンキャンパスへの軽金属製品の供与・貸与事業を実施し、小中高生、教師、父兄への軽金属製品啓蒙を行った。今回は特別維持会員企業の協力を得て、自動車用大型部品(フード、シリンダブロック等)貸与を追加し、11校に製品提供を行い、各校の開催報告記事「はぐくむ」を会誌、HPに掲載した。この他、日本産業技術教育学会が主催する第21回技術教育創造の世界「エネルギー利用」技術作品コンテスト(葛飾区水元総合スポーツセンター体育館)で軽金属材料を利用した中学生、小学生の各々1作品を表彰した。本事業は平成19年から実施し、これまで11作品(個人・団体)を表彰している。

また、各支部においても、学生会員を対象とした講演会、ポスター発表、見学会など、若手人材育成に関わる事業を実施した。

2. 若手の会、女性会員の会

(1) 若手の会

- 第34回会合: 第134回春期大会第2日目(5月27日)に実施。参加者33名(うち大学15名)。話題提供と質疑応答。
- 第14回若手育成のための合同会合: 第134回春期大会前日に実施。参加者19名(うち学生1名、大学3名)。
- 第35回会合: 第135回秋期大会第2日目(11月11日)に実施。参加者31名(うち大学16名)。話題提供と質疑応答。
- 第15回若手育成のための合同会合: 第135回秋期大会前日に実施。参加者12名(うち学生1名、大学2名)。

(2) 女性会員の会

- 第24回会合: 第134回春期大会第1日目(5月26日)に実施。参加者19名(うち男性応援5名)。
- 第15回託児室設置: 第134回春期大会中に実施。利用者なし。
- 第25回会合: 第135回秋期大会第1日目(11月10日)に実施。参加者30名(うち男性応援7名)。
- 第16回託児室設置: 第135回秋期大会中に実施。利用者なし。

3. 中堅企業R&D支援

二次加工業界の多くを占める中堅企業の技術開発を支援する「中堅企業R&D支援プログラム」の一環として、無料講演会、イブニングセミナー、相談会、出前講座などの行事を各支部で実施した。北海道、関東、東海支部では優れた技術開発を実施した維持会員企業を表彰する軽金属学会企業奨励賞授与を行った。本部では軽金属セミナーを録画したDVDの無料貸出を実施し、会員サービス向上による会員基盤増強を図った。また、春秋講演大会においては、ユーザー企業参加促

進策として企業交流会を実施し、第134回春期大会では、熱交換器に関する講演2件、第135回秋期大会では日本アルミニウム協会賞受賞企業4社の講演を行い、技術交流、人材交流の場を提供した。

#### 4. 支部活動

##### (1) 北海道支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 支部理事会、支部評議員会(1回) 2.講演会等 ①アルミ製品製造の高度化技術講演会(苫小牧) ②支部講演大会 H30.4.20(札幌)  ③講演会 3.人材育成 若手育成支援事業 10月19日  4.表彰関係 ①学生優秀講演賞 ②軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ③軽金属学会企業奨励賞推薦 5.維持会員加入勧誘活動 訪問活動継続	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 平成30年4月20日開催:支部長交代承認。 2.講演会等 ①未実施。 ②-1 平成30年4月20日開催。 ②-2 平成30年7月13日開催の金属学会鉄鋼協会合同北海道支部講演会に協賛。 ③未実施。 3.人材育成 構造部材分科会開催。 新日鐵住金室蘭工場見学・研究所見学を実施。 4.表彰関係 ①支部講演大会で支部学生優秀講演賞表彰。 ②支部枠1名、枠外1名の2名受賞。 ③(株)ディ・ビー・シー・システム研究所受賞。 5.維持会員加入勧誘活動 (株)ワールド山内入会(前支部長勧誘)
<b>特記事項)</b> 2.①、③胆振東部震災の影響により中止(幹事会社も被災し、復旧を優先)。 ②-1 支部講演大会 日本鑄造工学会北海道支部と合同開催。 全講演9件中、3件が軽金属関連。 「支部学生優秀講演賞」に Yingqi Ban 君(北海道大大学院)が受賞 ②-2 金属学会鉄鋼協会合同北海道支部会(7/13)に協賛。 ②-3 平成31年1月10、11日開催の金属学会鉄鋼協会合同北海道支部ウインターセッションに協賛。 その他 2021年の第140回春期大会開催会場の検討開始。	

##### (2) 東北支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 役員会(2回) 2.講演会等 ①主催講演会(2回)  ②共催・後援行事(3回)  3.人材育成  4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ③軽金属学会賞推薦 ④軽金属学会功労賞推薦 ⑤軽金属学会企業奨励賞推薦 5.維持会員加入勧誘活動 イブニングセミナー開催 平成31年3月18日	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 第1回平成30年11月27日 第2回平成31年3月15日 2.講演会等 ①平成30年7月20日開催 平成31年3月18日開催 ②1回:平成30年6月1日開催 2回:平成30年7月20日開催 3回:平成30年8月24日開催 4回:平成30年9月28-29日開催 3.人材育成 平成30年8月24日 共催講演会にて学生対象のポスターセッション開催および学生の聴講(若手支援助成申請) 4.表彰関係 ①該当なし ②2名推薦(枠内1、枠外1)、受賞 ③該当なし ④照田伸二氏推薦、受賞 ⑤該当なし 5.維持会員加入勧誘活動 講演会と同時開催。
<b>特記事項)</b> 2-① 第1回東北支部講演会 日本大学工学部(郡山)(参加者200名以上) 講師:東北大学金属材料研究所 千葉晶彦教授 「金属積層造形技術の現状と研究開発動向 ~電子ビーム金属積層造形技術を中心として~」 2-① 第2回東北支部講演会およびイブニングセミナー 東北大学青葉山キャンパス(仙台)	

「軽金属材料のリサイクルの現状と課題」		
講演:「アルミニウムリサイクルの現状と新たな取り組み」	日本軽金属(株)	石渡保生
「アルミニウムドロス残灰資源化の現状と今後の方向性」	東北大学	平木岳人
「マグネシウムのリサイクルおよび超高純度化」	富山高等専門学校	井上 誠
「チタンのリサイクルの現状と課題」	東北大学	竹田 修
2-②共催行事		
1 回:青森表面技術講演会 八戸		
2 回:第 30 回溶接・接合研究会 酒田		
3 回:日本バイオマテリアル学会東北ブロック講演会 仙台		
若手支援助成金を申請。東北地区学生によるポスター発表の開催および東北地区の学生を招待し、基調講演・招待講演 5 件およびポスター発表を聴講させた。		
4 回:溶接・接合技術 基礎セミナー		

### (3)関東支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 支部総会(1回)、支部運営委員会(4回) 場所:東京工業大学大岡山キャンパス	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①第 1 回運営委員会 平成 30 年 5 月 15 日 ②第 2 回運営委員会 平成 30 年 8 月 6 日 ③第 3 回運営委員会 平成 30 年 12 月 17 日 ④第 4 回運営委員会 平成 31 年 3 月 19 日 ⑤支部総会 平成 30 年 8 月 24 日 場所:東京工業大学デジタル多目的ホール 出席者:約 70 名
2.講演会等 ①第 135 回秋期大会(芝浦工大)の実行援助 ②工場見学会	2.講演会等 ①実行委員会に参画 ②平成 31 年 1 月 21 日 場所:いすゞ自動車(株)藤沢工場 参加者:19 名
3.人材育成 若手研究者講演発表会	3.人材育成 ①第 6 回若手研究者ポスター発表会 日時:平成 30 年 8 月 24 日 場所:東京工業大学コラボレーションルーム 参加者:約 70 名
4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考, 推薦 ④軽金属企業奨励賞 ⑤エネルギー利用技術作品コンテスト審査	4.表彰関係 ①1 名推薦、受賞。 ②推薦なし。 ③16 名推薦、受賞。 ④(株)タムラエジア推薦、受賞。 ⑤2 名を審査、表彰(軽金属学会会長賞)。
5.維持会員加入勧誘活動 セミナーや訪問活動を継続	5.維持会員加入勧誘活動 (株)タムラエジア入会
特記事項) 3.①第 6 回若手研究者ポスター発表会 参加者:若手研究者 30 名(企業 5 名、学生 25 名)、関東支部運営委員 18 名、他聴講者 22 名 ポスター発表件数:30 件 講演「新しいタイプの素材メーカー“異次元の素材メーカー”を目指して」 日本軽金属(株) 岡本一郎 聴講者:約 130 名	

### (4)北陸支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①定例幹事会(2回)  ②大会実行委員会(2回)	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①定例幹事会 第 1 回平成 30 年 4 月 12 日 富山大学 第 2 回平成 30 年 9 月 28 日 富山大学 ②平成 30 年 9 月 28 日 富山大学 平成 31 年 2 月 5 日 富山大学
2.講演会等 ①第 136 回春期大会の実行援助 ②秋期講演会	2.講演会等 ①平成 30 年 5 月 14 日 富山大学 ②平成 30 年 11 月 7 日 高岡 JA 会館
3.人材育成 ①幹事研修会	3.人材育成 ①平成 30 年 11 月 26 日、27 日

<p>②若手育成支援事業</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①高橋記念賞推薦</p> <p>②軽金属功労賞推薦</p> <p>③軽金属希望の星賞一次選考、推薦</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <p>随時実施</p>	<p>大平洋製鋼(株)、アライドマテリアル(株)</p> <p>②平成 30 年工場見学会開催</p> <p>7月4日、5日、11日、26日、30日</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①該当なし。</p> <p>②該当なし。</p> <p>③2名推薦、受賞。</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <p>支部講演会時に実施</p>
<p>特記事項)</p> <p>1.①春期講演会 招待講演・企業発表</p> <p>①「もの作りのためのアルミニウム合金の高性能化」 名古屋大学名誉教授 金武直幸</p> <p>②「高圧巨大ひずみ加工による高性能金属材料の開発」 九州大学主幹教授 堀田善治</p> <p>③「調理器具製造における新しい取組みと課題」 北陸アルミニウム(株) 大能誠志</p> <p>2.②秋期講演会 招待講演・企業発表</p> <p>①「金属製品のアディティブ・マニファクチャリングの実際」 (株)NTT データエンジニアリングシステムズ 前田寿彦</p> <p>②「アルミニウム合金粉末を用いた 3D プリンティングとその応用」 地方独立行政法人大阪産業技術研究所 木村貴広</p> <p>③「アルミニウム工業用炉の技術開発」 株式会社宮本工業所 山下 篤</p> <p>協賛事業</p> <p>①日本金属学会・日本鉄鋼協会北陸信越支部 6月12日、12月1日</p> <p>②富山大学材料科学国際シンポジウム(ICPMAT) 9月4日～7日、ハノイ工科大学</p> <p>③日本・ノルウェーアルミニウム合金シンポジウム 10月31日、富山大学</p> <p>④第4回先端材料研究フォーラム 10月31-11月1日 富山第一ホテル</p> <p>⑤日本顕微鏡学会第31回シンポジウム 11月1-3日 富山国際会議場</p> <p>⑥富山大学材料研究会 10月4日、2月5日 富山大学</p>	

(5)東海支部

計画	実施状況
<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合</p> <p>①総会</p> <p>②理事会(3回、但し第1回は運営委員会と兼務)</p> <p>2.講演会等</p> <p>①講演会(1回)</p> <p>②研究部会(航空機材料部会、プレス加工部会)</p> <p>3.人材育成</p> <p>①若手ポスター発表会</p> <p>②若手の会(軽進会)</p> <p>③女性会員の会</p> <p>④軽金属基礎講習会</p> <p>⑤中・高生向け工場見学会</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①高橋記念賞推薦</p> <p>②軽金属希望の星賞一次選考、推薦</p> <p>③企業奨励賞推薦</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <p>①支部セミナー</p> <p>②TECH Biz Expo 2019</p>	<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合</p> <p>①平成 30 年 4 月 27 日 名古屋工業大学</p> <p>②第 1 回 平成 30 年 6 月 24 日 名古屋工業大学</p> <p>第 2 回 平成 30 年 10 月 16 日 同上</p> <p>第 3 回 平成 31 年 3 月 7 日 同上</p> <p>2.講演会等</p> <p>①平成 30 年 4 月 24 日 名古屋工業大学</p> <p>講演 2 件、参加者 85 名</p> <p>②プレス加工部会(第 10 回)</p> <p>・第 10 回 平成 30 年 7 月 6 日</p> <p>名古屋市工業研究所 参加者数 22 名</p> <p>・第 11 回 平成 31 年 3 月 8 日</p> <p>名古屋市工業研究所 参加者数 22 名</p> <p>3.人材育成</p> <p>①平成 30 年 10 月 31 日ウインクあいち</p> <p>日本金属学会・日本鉄鋼協会との共催</p> <p>②平成 30 年 6 月 1 日 ヤマハ発動機(株)</p> <p>平成 30 年 10 月 24 日 (株)UACJ</p> <p>平成 31 年 3 月 5 日 産業技術研究所</p> <p>③平成 30 年 12 月 10 日 名古屋工業大学</p> <p>参加者 20 名</p> <p>④平成 30 年 8 月 28 日 名古屋工業大学</p> <p>講演 4 件、参加者 60 名</p> <p>⑤平成 31 年 3 月 25 日</p> <p>(株)UACJ 名古屋製造所、MRJ ミュージアム見学</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①推薦なし。</p> <p>②2名推薦、受賞。</p> <p>③ユーアイ精機(株)推薦、受賞。</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <p>①平成 30 年 9 月 25 日</p> <p>名古屋市工業研究所 講演 3 件、相談会</p> <p>②平成 31 年 2 月 6-7 日</p>

吹上ホール 講演 4 件 来場者 50 名	
特記事項)	
2.①第 1 回講演会 テーマ「アルミニウムの精錬とリサイクル」	
「アルミニウムの精錬」	日本軽金属(株) 村上智矢
「アルミニウムのリサイクル技術」	ハリタ金属(株) 張田 真
2.②第 10 回プレス加工部会 テーマ「3D 形状測定技術を用いた板材成形限界線図の作成(実習付き)」	
座学「成形限界線図の概念」	大同大学 西脇武志
座学「3D ひずみ計測の仕組みと実際」	丸紅情報システムズ(株) 山本彰子
実習「成形限界試験・ひずみ計測」	名古屋市工業研究所 村田真伸 丸紅情報システムズ(株) 山本彰子
2.②第 11 回プレス加工部会 テーマ「最適化手法の基礎理論講習会(実習付き)」	
座学「最適化の基礎・理論」	(株)JSOL 一ノ瀬規世
座学「LS-OPT の機能説明」	(株)JSOL 一ノ瀬規世
PC 実習「LS-OPT を用いた最適化の実習」	(株)JSOL 一ノ瀬規世 大同大学 西脇武志 名古屋市工業研究所 村田真伸
3.④基礎講習会 テーマ「2018 年度 若手研究者・技術者のための軽金属基礎講習会」	
「各種アルミニウム合金とその特徴(熱処理を含む)」	(株)UACJ 菅野能昌
「アルミニウム合金の表面処理」	三菱アルミニウム(株) 坂本泰久
「アルミニウム合金及び異種材の接合」	(株)神戸製鋼所 今村水速
「アルミニウム合金の塑性加工」	岐阜大学 吉田佳典
5.①支部セミナー テーマ「アルミニウム合金の鍛造シミュレーションと鋳造シミュレーション」	
「鍛造シミュレーションの基礎と実例」	SCSK(株) 星 雅人
「鋳造シミュレーションの基礎」	(株)日立産業制御ソリューションズ 平田直哉
「鋳造シミュレーションの実例」	(株)日立産業制御ソリューションズ 谷本雅俊
5.②TECH Biz Expo 2019 テーマ「題名:輸送機材としての軽金属」	
「航空機部品加工概要 ～加工歪対策の実際～」	三菱重工(株) 鈴木 博
「超高強度アルミニウム材料の開発」	(株)UACJ 戸次洋一郎
「鉄道車両構体の軽量化に資するマグネシウム合金押出材の開発」	三共立山(株) 清水和紀
「軽金属材料によるモーターサイクルの軽量化」	ヤマハ発動機(株) 進藤孝明
【展示会】	
・軽金属学会、東海支部の紹介パネル(4 枚)	
・講演会に関連した展示品:50φ 連続ねじり加工棒、ダブルスキン Mg 押出形材カットモデル、アルミニウム製燃料タンク、チタニウム製コンロッド、マグネシウム製ホイール	

## (6)関西支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①支部理事会、幹事会(2 回)	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①平成 30 年 4 月 19 日開催 平成 30 年 12 月 18 日開催
2.講演会等 ①支部シンポジウム	2.講演会等 ①「軽金属学会関西支部シンポジウム」 日時:平成 30 年 9 月 3 日 会場:関西大学 千里山キャンパス 参加者:56 名
②軽金属奨学会研究成果発表会協賛	②「軽金属の表面処理と新しい展開」 日時:平成 30 年 6 月 27 日 場所:大阪市中央公会堂 参加者:86 名
3.人材育成 ①関西軽金属サマースクール	3.人材育成 ①日時:平成 30 年 9 月 3 日 会場:関西大学 千里山キャンパス 参加者:64 名
②若手研究者・院生による研究発表会 大阪大学開催	②日時:平成 31 年 1 月 16 日 会場:大阪大学 吹田キャンパス 参加者:99 名
③大学院生フィールドワーク助成プログラム 神戸製鋼所、昭和電工、東洋アルミニウムで実施予定 参加大学は大阪工業大学、大阪大学、関西大学の予定	③平成 31 年 1 月 16 日に開催された「若手研究者・院生による研究発表会」において成果を発表した。
④第 35 回軽金属セミナー「マグネシウム合金の基礎技術」第 2 回(大阪開催)(企画委員会と関西支部で共催)	④日時:平成 30 年 11 月 26 日 会場:大阪府立大学 I-site なんば

<p>4.表彰関係</p> <p>①高橋記念賞推薦</p> <p>②軽金属学会功労賞推薦</p> <p>③軽金属希望の星賞一次選考、推薦</p> <p>④企業奨励賞推薦</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <p>①勧誘活動継続</p> <p>②出前講座 八尾市開催</p>	<p>参加者:45名</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①1名推薦、受賞。</p> <p>②推薦なし。</p> <p>③枠内4名、枠外1名推薦、5名受賞。</p> <p>④推薦なし。</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <p>①継続的に勧誘している。</p> <p>②日時:平成31年2月6日</p> <p>会場:八尾市商工会議所</p>
--	---

<p>特記事項)</p> <p>2.①軽金属学会関西支部シンポジウム</p> <p>「チタンおよびチタン合金に関する粉末製造と部品開発および医療への応用」大阪冶金興業(株) 土井研兒、森 重雄</p> <p>「電子ビーム三次元積層造形法による TiAl 合金の組織制御と力学特性改善」 大阪大学 趙 研</p> <p>「電子ビーム積層造形した Ti-6Al-4V 合金の微細組織と疲労特性の関係」 上智大学 久森紀之</p> <p>2.②軽金属奨学会第23回課題研究成果発表会「軽金属の表面処理と新しい展開」(協賛)</p> <p>「アルミニウムとCFRPとのガルバニック腐食」 室蘭工業大学 境 昌宏</p> <p>「高規則性ポーラスアルミナの形成と機能的応用」 首都大学東京 柳下 崇</p> <p>「チタン・チタン合金の生体適合性制御のための表面改質とその応用」 名古屋大学 黒田健介</p> <p>「生体用 Mg 合金の表面被覆と諸特性の検討」 物質・材料研究機構 廣本祥子</p> <p>「アルミニウム電解めっき処理による表面の機能化」 北海道大学 上田幹人</p> <p>「表面ナノ構造に基づく新規機能性アルミニウム材料の開発」 北海道大学 菊地竜也</p> <p>3.①関西軽金属サマースクール</p> <p>「アルミニウム合金粉末を用いたレーザ積層造形体の組織と熱的・機械的性質」</p> <p style="text-align: right;">大阪産業技術研究所 木村貴広</p> <p>「積層造形用アルミニウム合金粉末の要求特性と課題」</p> <p style="text-align: right;">東洋アルミニウム(株) 橋詰良樹</p> <p>3.②若手研究者・院生による研究発表会</p> <p>口頭発表:</p> <p>「アルミニウム合金への多層構造 DLC の膜特性調査」 関西大学 丸野英伸</p> <p>「銅めっきを利用した Al/Al および Al/Fe 積層材のアンカー効果による高強度化」 京都大学 山野友梨子</p> <p>「Mg<sub>17</sub>Al<sub>12</sub> 単結晶の塑性変形機構、ミルフィーユ材料への展開」 大阪大学 早川恭平</p> <p>「Mg 合金の Hanks 液中でのスライディング摩擦における腐食摩耗の発現」 兵庫県立大学 白石智大</p> <p>「薄肉アルミニウムダイカストに関する研究」 大阪工業大学 寺尾 勝</p> <p>「超高速衝撃荷重下におけるマグネシウム合金の変形挙動」 神戸大学 藤田直輝</p> <p>「高純度 Al-7.3Mg 合金の粒界破壊に及ぼす微量 Fe 添加の影響」 大阪府立大学 大手里奈</p> <p>「接合強度評価手法の開発」 神戸製鋼 赤崎圭輔</p> <p>特別講演:</p> <p>「材料組織学の巨人の肩の上に乗って」 大阪大学 南埜宜俊</p> <p>3.④第35回軽金属セミナー「マグネシウム合金の基礎技術」第2回(大阪開催)</p> <p>「マグネシウム合金の機械的性質」 産業技術総合研究所 千野靖正</p> <p>「マグネシウム合金の圧延加工技術」 権田金属工業(株) 野田雅史</p> <p>「マグネシウム合金の押出加工技術」 三協立山(株) 清水和紀</p> <p>「マグネシウム合金の安全性評価」 日本マグネシウム協会 駒井 浩</p> <p>「マグネシウム合金の接合技術」 大阪大学 中田一博</p> <p>「マグネシウム合金の防食技術」 産業技術総合研究所 中津川勲</p> <p>「マグネシウム合金のプレス加工技術」 芝浦工業大学 吉原正一郎</p> <p>3.④出前講座(軽金属需要喚起啓発ボランティアプログラム)</p> <p>「アルミニウム材料の基礎とその接合技術」セミナー</p> <p>「アルミニウムの強度特性と材質選定について」 日鉄住金テクノロジー(株) 福井 清</p> <p>「アルミニウムの接合技術について ～摩擦攪拌接合を中心に～」 大阪産業技術研究所 平田智文</p>		
--	--	--

(7)中国四国支部

計画	実施状況
<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 役員会</p> <p>2.講演会等</p> <p>①第10回支部講演大会(広島工業大学)</p>	<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 開催日:第1回 平成30年7月28日 会場 :広島工業大学</p> <p>2.講演会等</p> <p>①開催日:平成30年7月28日 会場 :広島工業大学 参加者:参加者57名、講演件数30件 表彰 :優秀講演賞8件、研究・開発奨励賞:2件</p>

<p>②研究会(2回)</p> <p>3.人材育成</p> <p>①若手フォーラム 12月、2月開催 2月:高校生ポスター発表(岡山)</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④支部賞(優秀講演賞、研究・開発奨励賞、技術賞、奨励賞)選考・授与</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 中小企業支援事業、講演会を開催。 訪問活動継続</p>	<p>②-1「第1回支部研究会」 開催日:第1回 平成30年6月12日 会場:広島大学</p> <p>②-2「第66回材質制御研究会」 開催日:平成31年1月24日 会場:広島工業大学</p> <p>3.人材育成</p> <p>①-1「第41回若手フォーラム」共催 開催日:平成30年12月4日 会場:高松レグザムホール</p> <p>①-2「第44回若手フォーラム」共催、高校生ポスター発表 開催日:平成31年2月16日 会場:岡山・ピュアリティまきび</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①推薦なし。 ②推薦なし。 ③1名推薦、受賞。 ④2.①参照、奨励賞13名受賞</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 支部講演大会にてパンフレットを配布</p>
--	--

<p>特記事項)</p> <p>2.②-1 第1回支部研究会「粉末プロセスを利用した高性能材料の創製」</p> <p>「高機能難加工材の製造・先端加工システム開発による革新的ものづくり研究拠点の紹介」 広島大学 篠崎賢二  「非平衡材料の創製と部材成形技術への展開」 (株)超高温材料研究センター 中川成人  「周期的一軸圧力下でのパルス通電焼結による Bi<sub>2</sub>Te<sub>3</sub> 系熱電材料の組織制御」 島根大学 北川裕之  「MIM 製 Ti-6Al-4V 合金の高サイクル疲労特性に及ぼす結晶粒径および気孔径の影響」 九州大学 工藤健太郎  「放電焼結法による FeB-Ni 系硬質材料の開発と特性評価」 広島大学 康 少明</p> <p>2.②-2 第66回材質制御研究会「—軽金属材料の高機能化ならびに応用—」</p> <p>「マグネシウムスクラップ品のリサイクルとレーザ応用」 広島工業大学 日野 実  「マグネシウム合金のリサイクルに向けた不純物元素の無害化」 関西大学 森重大樹  「金属/異種材料接合のためのレーザによる金属表面処理」 ダイセルポリマー(株) 宇野孝之  「軽金属材料の表面から放出される水素の挙動」 大阪大学 堀川敬太郎  「Ti および Ti 合金の活性化処理と水素貯蔵特性」 広島大学 市川貴之</p> <p>3.①-1 「第41回若手フォーラム」</p> <p>「bcc チタンにおける酸素・空孔挙動の第一原理計算を用いた理論解析」 愛媛大学 村上太悟  「Ti-10Mo-7Al のサブゼロ処理と短時間焼戻しによるマルテンサイト変態」 岡山大学 荒木 稜  「Al-Si 系合金の急冷凝固法および Zr 添加による機械的特性の向上」 広島大学 山本 宏  「製造プロセス簡素型の β チタン合金の開発」 広島大学 井ノ下大誠  「電子ビーム積層造形した Ti-6Al-4V 合金の組織に及ぼす造形条件の影響」 鳥取大学 大津 彬  「静的強度試験に基づく AZ91D 射出成形品の降伏応力の推定」 岡山県立大学 木口圭佑  「アルミニウムと亜鉛めっき鋼板の異種金属接合」 阿南高等専門学校 一宮大晃  「マグネシウム合金の接着性に及ぼす表面処理の影響」 広島工業大学 水野真希  「鉄における水素誘起キャビティと転位の相互作用」 島根大学 蔭山彰良  「各種水溶液中での SUS430 鋼の腐食摩耗挙動」 広島工業大学 小方雄斗  「Ti-25Nb-7Al 合金における焼入れ組織と機械特性に及ぼす溶体化温度の影響」 岡山大学 元吉達也  「Ti-6Al-7Nb 合金の表面皮膜構造に対する多段階 MAO 処理プロセスの影響」 香川大学 栄谷美歩  「タングステンにおける衝突カスケード誘起欠陥の安定化因子」 島根大学 松本 啓  「CFRP 積層板の落錘衝撃パンチプレスによるせん断挙動」 香川大学 間部航平  「Fe-Al 系熱電発電材料の開発」 香川高等専門学校 三木翔平</p> <p>3.①-2「第44回若手フォーラム」</p> <p>「オーステナイト系ステンレス鋼の表面下層構造変化が摩耗特性に及ぼす影響」 岡山大学 李 允碩  「炭素繊維/エポキシ積層複合材の衝撃応力-ひずみ特性の評価:圧縮と引張り」 岡山理科大学 中井賢治  ポスターセッション</p>	
--	--

(8)九州支部

計画	実施状況
<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合</p> <p>①役員会・例会(2回)</p>	<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合</p> <p>①第99回 平成30年7月30日開催 KM アルミニウム(株)及び三井港倶楽部</p>

<p>2.講演会等 ①第 134 回春期講演大会(熊本大学)の実行支援</p> <p>②合同学術講演会共催 日本鉄鋼協会・日本金属学会</p> <p>3.人材育成 ①若手研究発表会</p> <p>4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属学会功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④合同学術講演会講演大会若手ポスター賞表彰</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 ①中堅企業支援支部セミナー、見学会</p>	<p>第 100 回 平成 31 年 1 月 30 日開催 産業技術総合研究所九州センター</p> <p>2.講演会等 ①平成 30 年 5 月 25-27 日 熊本大学黒髪キャンパス ②平成 30 年 6 月 23 日 北九州国際会議場</p> <p>3.人材育成 ①第 99 回例会にて合同学術講演大会での受賞学生による受賞 記念口頭発表を開催</p> <p>4.表彰関係 ①推薦なし ②推薦なし ③枠内 2 名、枠外 1 名推薦、3 名受賞 ④20 名表彰(軽金属関係 3 名)</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 ①平成 31 年 1 月 30 日開催 産業技術総合研究所 九州センター</p>								
<p>特記事項)</p> <p>5①講演会</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 70%;">「マルチマテリアル戦略における応力発光による“見える”接着評価」産業技術総合研究所</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">寺崎 正</td> </tr> <tr> <td>「プロセスの異常検知・診断技術への AlN 薄膜圧電体の活用」</td> <td style="text-align: right;">田原竜夫</td> </tr> <tr> <td>「難燃マグネシウムの電池利用に関する研究 ー循環社会実現に向けてー」</td> <td style="text-align: right;">坂本 満</td> </tr> <tr> <td>「アルミニウム合金の物性・特性評価、組織評価手法の紹介」 (株)コベルコ科研</td> <td style="text-align: right;">山口真弘、佐藤和史</td> </tr> </table>		「マルチマテリアル戦略における応力発光による“見える”接着評価」産業技術総合研究所	寺崎 正	「プロセスの異常検知・診断技術への AlN 薄膜圧電体の活用」	田原竜夫	「難燃マグネシウムの電池利用に関する研究 ー循環社会実現に向けてー」	坂本 満	「アルミニウム合金の物性・特性評価、組織評価手法の紹介」 (株)コベルコ科研	山口真弘、佐藤和史
「マルチマテリアル戦略における応力発光による“見える”接着評価」産業技術総合研究所	寺崎 正								
「プロセスの異常検知・診断技術への AlN 薄膜圧電体の活用」	田原竜夫								
「難燃マグネシウムの電池利用に関する研究 ー循環社会実現に向けてー」	坂本 満								
「アルミニウム合金の物性・特性評価、組織評価手法の紹介」 (株)コベルコ科研	山口真弘、佐藤和史								

## II. 処務の概況

### [1] 役員等に関する事項

#### 1. 役員

職名	氏名	常勤・非常勤	就任平成年月日 (最初の就任の時)	重任平成年月日 (現在の任期の開始時)	報酬	担当 *:委員長	現職名
代表理事・会長	伊藤 吾朗	非常勤	29年5月20日		なし	組織*	茨城大学教授
代表理事・副会長	松田 健二	同上	29年5月20日		同上	総合計画*	富山大学教授
同上	穴見 敏也	同上	29年5月20日		同上	総合計画 国際交流	日本軽金属(株)グループ技術センター グループマネージャー
理事	荒木 秀樹	同上	29年5月20日		同上	支部長会*	大阪大学教授
同上	井上 博史	同上	29年5月20日		同上	研究 国際交流	大阪府立大学教授
同上	河村 能人	同上	27年5月16日	29年5月20日	同上	国際交流* 支部長会	熊本大学先進マグネシウム国際 研究センター長
同上	北薮 幸一	同上	29年5月20日		同上	編集	首都大学東京教授
同上	小橋 眞	同上	29年5月20日		同上	企画	名古屋大学教授
同上	コマロフ・セルゲイ	同上	27年5月16日	29年5月20日	同上	国際交流	東北大学教授
同上	坂入 正敏	同上	29年5月20日		同上	企画	北海道大学准教授
同上	柴柳 敏哉	同上	29年5月20日		同上	大会運営*	富山大学教授
同上	鈴木 進補	同上	27年5月16日	29年5月20日	同上	総務	早稲田大学教授
同上	日野 実	同上	29年5月20日		同上	大会運営	広島工業大学教授
同上	廣澤 渉一	同上	27年5月16日	29年5月20日	同上	編集*	横浜国立大学教授
同上	御手洗容子	同上	29年5月20日		同上	編集	物質・材料研究機構 構造材料研究拠点副拠点長
同上	渡辺 義見	同上	27年5月16日	29年5月20日	同上	総務 参与会	名古屋工業大学教授
同上	足高 善也	同上	29年5月20日		同上	国際交流	東洋アルミニウム(株) 執行役員
同上	宇野 清文	同上	29年5月20日		同上	大会運営	三協立山(株)三協アルミ社 技術開発統括部 技術開発部部长
同上	橋内 透	同上	29年5月20日		同上	企画*	ヤマハモーターエレクトロニクス(株) 代表取締役社長
同上	小出 政俊	同上	29年5月20日		同上	参与会*	(株)神戸製鋼所アルミ・銅事業部門 技術部長
同上	小山 克己	同上	27年5月16日	29年5月20日	同上	総務*	(株)UACJ 技術部主幹
同上	中沢 靖	同上	29年5月20日		同上	総務 研究	(株)本田技術研究所 オートモービルセンター主任研究員
同上	久幸 晃二	同上	29年5月20日		同上	編集	昭和電工(株)融合製品開発研究所 副所長
同上	戸次洋一郎	同上	29年5月20日		同上	研究	(株)UACJ R&D センター 上席主幹
同上	山口恵太郎	同上	27年5月16日	29年5月20日	同上	研究*	三菱アルミニウム(株) 研究開発部長
監事	神戸 洋史	同上	29年5月20日		同上	監事	日産自動車(株)パワートレイン生産 技術開発本部 パワートレイン技 術企画部 シニアエキスパート
同上	堀田 善治	同上	29年5月20日		同上	同上	九州大学主幹教授

### [2] 職員に関する事項

職名	氏名	常勤・非常勤	採用年月日	担当事務	備考
事務局長	石川和徳	常勤	平成25年1月1日	全般	平成25年6月1日就任
職員	前田その美	常勤	平成8年4月1日	庶務	
職員	木村明子	常勤	平成8年4月1日	編集	
職員	中村秀樹	非常勤	平成28年2月1日	経理	

[3]会議等に関する事項

1. 総会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
平成 30 年度定時総会	30 年 5 月 26 日	1. 平成 29 年度事業報告に関する件(報告事項) 2. 平成 29 年度決算報告に関する件(審議事項) 3. 平成 30 年度事業計画の件(報告事項) 4. 平成 30 年度収支予算に関する件(報告事項)	1. 全員異議なく原案通り確認。 2. 全員異議なく原案通り承認可決。 3. 全員異議なく原案通り確認。 4. 全員異議なく原案通り確認。

2. 理事会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第 54 回	30 年 4 月 26 日	【審議事項】 1. 平成 30 年度定時総会に関する件 ①平成 29 年度事業報告に関する件 ②平成 29 年度決算報告に関する件 2. 会員異動に関する件 【報告事項】 1. 他学会との協賛事業の件 2. 常設委員会報告	【審議事項】 1. 全員異議なく承認可決。  2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 全員異議なく、確認した。 2. 企画、研究、国際交流、男女共同参画、大会運営、総合計画委員会報告。第 135 回秋期大会で概要集電子化実施。
第 55 回	30 年 6 月 28 日	【審議事項】 1. 各賞表彰選考に関する件  2. 第 136 回春期大会実行委員会委員(案)および予算(案)に関する件 3. 会員異動、委員交代に関する件 【報告事項】 1. 第 134 回春期大会決算報告に関する件 2. 他学会との協賛事業の件 3. 5-6 月開催の常設委員会報告  4. その他 ・参与会(7 月 26 日)開催案内 ・東北大学金属材料研究所の国際共同利用・共同研究拠点認定への支持について ・日本学術会議・材料工学委員会の材料連合協議会加盟の件	【審議事項】 1. 軽金属躍進賞、軽金属奨励賞、軽金属女性未来賞選考結果について、原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。  3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。ICAA18 日本誘致決定。 4. 資料に基づき報告。
第 56 回	30 年 9 月 27 日	【審議事項】 1. 軽金属論文賞・論文新人賞、小山田記念賞、高橋記念賞、躍進賞、奨励賞、女性未来賞選考に関する件 2. 規程改定に関する件  3. 会員異動、支部長交代に関する件 4. 常設委員会・選考委員会委員変更の件 【報告事項】 1. 他学会との協賛事業に関する件 2. 7 月・9 月の常設委員会報告	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。  2. 研究委員会、若手の会、女性会員の会、男女共同参画委員会、優秀ポスター発表賞、旅費・交通費規程等、一部修正し全員異議なく承認可決。 3. 原案のとおり全員異議なく承認可決。 4. 原案のとおり全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告
第 57 回	30 年 10 月 30 日	【審議事項】 1. 第 22 回軽金学会賞に関する件 2. 第 21 回軽金属学会功労賞に関する件 3. 第 17 回軽金属功績賞に関する件 4. 中間決算・監査報告 5. 会員異動・選考委員交代に関する件 【報告事項】 1. 支部中間活動報告 2. 他学会との協賛事業に関する件 3. 10 月開催常設委員会報告	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 5. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。

		4. 国際交流委員会国際賞検討の件 5. 第 60 回理事会日程変更 6. 軽金属希望の星賞選考(メール審議)の件 7. エネルギー利用技術作品コンテスト表彰に関する件	4. 資料に基づき報告。 5. 3月26日を27日に変更。 6. 第58回理事会日程変更で対応。 7. 関東支部選考、表彰日程報告。
第 58 回	31 年 1 月 21 日	【審議事項】 1. 軽金属希望の星賞、企業奨励賞選考に関する件 2. 名誉会員・永年会員推薦に関する件 3. 第 137 回秋期大会実行委員会委員構成案および予算書案に関する件 4. 研究部会新設、1年延長の件 5. 2019 年度支部費配賦額に関する件 6. 各種規程類の新設・改定に関する件 (支部、軽金属希望の星賞規程編集委員会、投稿、Materials Transactions 投稿、) 7. 会員異動、支部長・常設委員交代に関する件 【報告事項】 1. 第 135 回秋期大会収支報告の件 2. 他学会との協賛事業の件 3. 常設委員会報告の件 4. エネルギー利用技術作品コンテスト表彰に関する件	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 5. 原案を修正し、全員異議なく承認可決。 6. 「軽金属」投稿規程を除き、原案の通り全員異議なく承認可決。 7. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。 4. 2 件表彰を報告。
第 59 回	31 年 2 月 28 日	【審議事項】 1. 2019・2020 年度役員に関する件 2. 軽金属学会国際賞(仮称)の創設に関する件 3. 2019 年度特別維持委員会費に関する件 4. 一般社団法人 2019 年度定時総会開催に関する件 5. 会員異動、支部長交代に件 【報告事項】 1. 平成 30 年度収支決算見込みおよび 2019 年度予算案に関する件 2. 他学会との協賛事業の件 3. 常設委員会報告の件	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 報告事項に変更。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 5. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 全異議なく予算案を確認した。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。
第 60 回	31 年 3 月 27 日	【審議事項】 1. 平成 31 年度事業計画に関する件 2. 平成 31 年度収支予算に関する件 3. 2019・20 年度役員候補変更に関する件 4. 規程の改定に関する件 【報告事項】 1. 支部平成 30 年度活動報告および平成 31 年度活動計画について 2. 研究部会平成 30 年度事業報告および平成 31 年度事業計画について 3. 他学会との協賛事業の件 4. 常設委員会報告の件 5. 表彰スケジュール	【審議事項】 1. 修正追記し、全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 1 名の変更を全員異議なく承認可決。 4. 「軽金属」投稿規程り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 全員異議なく、確認した。 2. 全員異議なく、確認した。 3. 全員異議なく、確認した。 4. 資料に基づき報告。 5. 資料に基づき報告。

### 3. 常設委員会

#### (1)総合計画委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
会員増強 WG 第 3 回	30 年 4 月 26 日	1. 会員増強策議論・具体策検討 ①ダイカスト・鋳物関連の研究部会設置 ②企業現役世代の退会止め策 ③ユーザー企業勧誘策 ④女性会員増強策 ⑤シニア会員活用策 ⑥会費制度見直し	1. 会員動向調査結果より、会員増強の具体アクションプランを提示。関連する常設委員会への検討依頼をすることとした。

		⑦講演大会講演数増加策	
第6回	30年4月26日	<ol style="list-style-type: none"> <li>平成29年度決算および平成30年度予算案について</li> <li>総合計画委員会活動課題の進め方 <ol style="list-style-type: none"> <li>①会員増強WG</li> <li>②電子化WG</li> </ol> </li> <li>常設委員会平成29年度活動まとめと30年度活動計画</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原案のとおり確認。</li> <li>2. 両WGの進捗報告を確認。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①委員会別アクションプラン検討。</li> <li>②概要集電子化具体策、著作権規程遵守チェックシート検討。</li> </ol> </li> <li>3. 委員会連携課題の確認。</li> </ol>
会員増強WG第4回	30年5月26日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会員増強策議論・具体策検討 <ol style="list-style-type: none"> <li>①成長産業分野の研究部会設置による会員勧誘(ダイカスト・鋳物)</li> <li>②企業現役世代の退会引止め策</li> <li>③ユーザー企業勧誘策</li> <li>④女性会員増強策</li> <li>⑤会費制度見直し</li> <li>⑥講演大会講演数増加策</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回アクションプラン案を再度議論し、次回総合計画委員会にWG活動報告・提案を行うこととした。</li> </ol>
第7回	30年6月28日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会員増強WG課題進捗</li> <li>2. 電子化WG課題進捗</li> <li>3. ICAA18誘致の件</li> <li>4. 国際交流ワークショップ報告「材料系学協会における国際交流活動の課題と展望」</li> <li>5. その他</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究、大会運営、男女共同参画、総務委員会に会員増強策検討要請。</li> <li>2. 企画、研究委員会での著作権規程遵守チェックシート検討結果報告。著作権取扱い、転載・引用のガイドライン検討。</li> <li>3. ICAA16国際委員会で2022年の日本誘致決定。</li> <li>4. 6月6日開催。日本学術会議と材料系6学会が講演。</li> <li>5. 大会2.5日制準備状況、支部長会議論内容報告。</li> </ol>
第8回	30年10月30日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 支部活動中間報告(中堅企業支援活動状況)</li> <li>2. 上期決算報告</li> <li>3. 平成31年度支部費配賦案</li> <li>4. 活動課題討議 <ol style="list-style-type: none"> <li>①会員増強WG</li> <li>②電子化WG</li> <li>③ICAA18準備WG</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各支部長から活動報告。</li> <li>2. 決算内容確認。</li> <li>3. 配賦案承認。今後支部長合意確認。</li> <li>4. 下記報告。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①各常設委員会に検討依頼中。</li> <li>②著作物の引用に関する基本的な考え方まとめ。ガイドライン案検討中。</li> <li>③実行委員案、プロシーディングス内容検討中。</li> </ol> </li> </ol>
電子化WG第2回	30年11月10日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子化ガイドライン内容議論</li> <li>2. テキスト、概要原稿チェック結果と電子化WGへの回答</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 軽金属学会の出版物に論文等を投稿する際に他の著作物を利用する場合のガイドライン案を検討。</li> <li>2. 各常設委員会の状況、要望報告。</li> </ol>
会員増強WG第5回	31年1月21日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会員増強策議論・具体策検討 <ol style="list-style-type: none"> <li>①第2回中間報告</li> <li>②若手の会アンケート結果</li> <li>③1月9日男女共同参画委員会報告</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業正会員減少対策を検討。若手の会アンケート結果をもとに、企業現役世代に魅力ある学会模索。会費制度見直し案について、各常設委員会の意見聴取実施。</li> </ol>
電子化WG第3回	31年1月21日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子化ガイドライン内容議論</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 著作権規程改定案について、追加する別紙「軽金属学会に著作権のない著作物の利用に関する注意」の内容について、関係部署の意見を聴取することとした。</li> </ol>
第9回	31年1月21日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総合計画委員会課題進捗 <ol style="list-style-type: none"> <li>①総合計画委員会活動まとめ</li> <li>②会員増強WG</li> <li>③電子化WG 電子化ガイドライン</li> <li>④ICAA18準備WG</li> </ol> </li> <li>2. 引継事項に関する依頼事項</li> <li>3. 常設委員会出席率</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各WGから進捗報告。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①全体進捗を確認。</li> <li>②各常設委員会依頼事項確認。</li> <li>③軽金属学会に著作権のない著作物の利用に関する注意文書の取扱を協議。</li> <li>④論文掲載を義務としないプロシーディングス方針案提案。</li> </ol> </li> <li>2. 3月末提出を依頼。</li> <li>3. 出席率状況報告と出席率増加要請。</li> </ol>

電子化 WG 第 4 回	31 年 2 月 27 日	1. 注意文書内容確認 2. 著作権規程、執筆要領改定 3. WG 課題	1. 関係部署平易版作成要請。 2. 編集委員会改訂案作成。 3. 著作権 WG 設置し学会方針検討。
会員増強 WG 第 6 回	31 年 2 月 28 日	1. 会員増強策議論・具体策検討 ①会費制度見直し	1. 会費・会誌費用分割、区分増加(ジュニア、若手、シニア会員追加)、休眠制度採用を常設委員会に答申し、2020 年総会承認、2021 年度実施を計画。
第 10 回	31 年 2 月 28 日	1. 平成 30 年度決算予測および 2019 年度予算案について 2. 会員増強 WG 報告 3. 電子化 WG 報告 4. 国際交流委員会「軽金属国際賞」について 5. 引継事項	1. 原案のとおり確認。 2. 上欄同様、会費制度見直内容、実施スケジュール確認。 3. 注意文書の周知方法検討、著作権規程・執筆要領改訂、著作権 WG 設置し、学会方針検討。 4. 70 周年事業での招待講演で代用を検討。 5. 3 月末提出を要請。
第 11 回	31 年 3 月 27 日	1. 平成 31 年度事業計画・予算案(第 2 次) 2. 支部平成 30 年度活動報告と平成 31 年度活動計画 3. 常設委員会検討課題フォロー・協議 ①会員増強 WG 活動 ②電子化 WG 活動 ③著作権 WG 設置について ④入会案内パンフレット改訂について ⑤総合計画委員会引継事項 ⑥常設委員会出席率	1. 原案のとおり確認。 2. 8 支部報告を確認。 3. 常設委員会課題まとめを実施。 ①会費制度見直し案提案。各常設委員会意見聴取を要請した。 ②著作権規程改定案説明。総務委員会での検討を要請した。 ③設置に向けて WG メンバー人選。 ④4 月上旬のマイナー改訂案承認。 ⑤委員長案提示。 ⑥総合計画委員会は 79.5%を確認。

(2)総務委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第 277 回	30 年 5 月 14 日	1. 人材育成検討 WG 報告 ・製品供与・貸与 ・科学実験室 ・高度人材育成事業 2. 規程・会員特典 WG 報告 ・理事会指摘事項(著作権、英語ポスター) ・功労賞規程、選考委員会運営細則  ・軽金属希望の星賞選考細則 ・優秀ポスター発表賞審査・選考運営細則  ・旅費規程  ・研究委員会規程、研究部会運営細則改定  ・会員特典 3. HP・広報 WG 報告 ・国際交流委員会要請についての回答 ・英語ページ修正	1. 下記実施事項検討。 ・申込 9 件、一部大型製品除き対応。 ・総務委員事例収集 5 月末。 ・博士奨励賞、アカデミック支援検討。 2. 下記実施事項検討。 ・指摘事項修正承認。 ・受賞対象の明確な線引きをしない方向で見直し。支部長会意向も聴取。 ・支部長会での 1 次選考調整を追記。 ・審査員削減策承認。審査員審査数 5 件から 7-8 件、1 ポスター審査員数 5 名から 3 名に変更。 ・見直し案、旅費申請書案をさらに見直す。 ・研究成果取扱とアドバイザー追加案について、次回研究委員長説明。 ・会員増強 WG 検討内容報告。 3. WG 長から国際交流委員会へ回答、英語ページ修正担当、スケジュールは次回確認。
第 278 回	30 年 7 月 17 日	1. 人材育成検討 WG 報告 ・科学実験室 ・高度人材育成事業 2. 規程・会員特典 WG 報告 ・功労賞規程、選考委員会運営細則 ・軽金属希望の星賞選考細則  ・優秀ポスター発表賞規程 ・旅費規程	1. 下記実施事項検討。 ・8 事例チェック、HP 掲載準備。 ・若手の会、リクルート企画に追加。 2. 下記実施事項検討。 ・支部長会意向追加案待ち。 ・推薦制限枠撤廃追加の支部長会意向案待ち。 ・ダブル受賞回避案検討。 ・委員長案検討。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究委員会規程、研究部会運営細則改定</li> <li>・編集委員会規程</li> <li>・規程等改定申請書</li> <li>・会員特典</li> </ul> <p>3. HP・広報 WG 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流委員会要請についての回答</li> <li>・英語ページ修正</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究委員長説明。一部修正要請。</li> <li>・新規出版物の取扱追記修正要請。</li> <li>・承認</li> <li>・会費見直し検討。収入減試算。</li> </ul> <p>3. WG 長から国際交流委員会へ回答、英語ページ修正担当、スケジュールは次回確認。</p>
第 279 回	30 年 9 月 4 日	<p>1. 人材育成検討 WG 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学実験室</li> <li>・高度人材育成事業</li> </ul> <p>2. 規程・会員特典 WG 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・功労賞規程、選考委員会運営細則</li> <li>・軽金属希望の星賞選考細則</li> <li>・優秀ポスター発表賞規程</li> <li>・旅費規程</li> <li>・研究委員会規程、研究部会運営細則改定</li> <li>・投稿規程、Mater.Trans.投稿規程</li> <li>・若手の会、女性会員の会、男女共同参画委員会規程</li> <li>・会費見直し</li> </ul> <p>3. HP・広報 WG 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流委員会要請についての回答</li> <li>・英語ページ修正</li> </ul>	<p>1. 下記実施事項検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8 事例 HP 掲載チェック。</li> <li>・若手の会、大会期間中とは別途別途検討。</li> </ul> <p>2. 下記実施事項検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改定見合わせ。過去受賞者参照。</li> <li>・推薦制限枠撤廃。</li> <li>・ダブル受賞回避案。</li> <li>・旅費申請書による支給に改定。</li> <li>・アドバイザー、成果追加改定。</li> <li>・解説和英訳、技術報告追加検討。</li> <li>・承認</li> </ul> <p>・委員長案会員増強 WG 提案。</p> <p>3. 英語ページ修正案議論。国際交流委員会と修正箇所協議の上、修正。</p>
第 280 回	30 年 11 月 26 日	<p>1. 人材育成検討 WG 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学実験室</li> <li>・平成 31 年度ライトメタルリクルート企業掲載</li> <li>・同インターンシップ企業掲載</li> <li>・同製品供与・貸与事業</li> </ul> <p>2. 規程・会員特典 WG 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支部会規程</li> <li>・編集委員会規程</li> <li>・投稿規程、Mater.Trans.投稿規程</li> </ul> <p>3. HP・広報 WG 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流委員会要請についての回答</li> <li>・英語ページ修正</li> <li>・入会案内パンフレット更新</li> </ul> <p>4. その他</p>	<p>1. 下記実施事項検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8 事例 HP 掲載最終チェック。</li> <li>・学生アンケート実施し改善検討。</li> <li>・同上。</li> <li>・先生アンケート実施し、改善検討。</li> </ul> <p>2. 下記実施事項検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・承認。</li> <li>・承認。</li> <li>・一部修正し編集幹事会に返却。</li> </ul> <p>3. 国際交流委員会への回答、英語ページ修正点確認。パンフレット業者コンペ実施決定。</p> <p>4. 会員増強・電子化 WG 報告、軽金属希望の星 2 次選考日程、学術著作権協会の転載受託事業について報告。</p>
第 281 回	31 年 1 月 11 日	<p>1. 人材育成検討 WG 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミック人材キャリア学生アンケート</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H31 年度製品供与・貸与事業 アンケート</li> </ul> <p>2. 規程・会員特典 WG 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・投稿規程、Mater.Trans.投稿規程</li> <li>・著作権規程</li> </ul> <p>3. HP・広報 WG 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語ページ修正</li> <li>・大会講演・参加申込英語サイト</li> <li>・入会案内パンフレットコンペ</li> </ul> <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望の星賞 2 次選考</li> <li>・企業奨励賞確認</li> <li>・名誉会員、永年会員候補者</li> <li>・引継事項</li> <li>・委員会出席率</li> </ul>	<p>1. 下記実施事項検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答結果まとめ、ライトメタルリクルートサイト認知度向上対策検討。</li> <li>・学側会員に実施し、事業案まとめ。</li> </ul> <p>2. 下記実施事項検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総務修正案を編集幹事会承認。</li> <li>・編集幹事会検討状況を確認、要望。</li> </ul> <p>3. 下記実施事項検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Activity ページ修正</li> <li>・改訂状況確認</li> <li>・業者・案決定、今後予定確認。</li> </ul> <p>4. 下記承認、報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・33 名選考。</li> <li>・3 社受賞確認。</li> <li>・各々 3 名、7 名承認。</li> <li>・3 月末提出要請。</li> <li>・出席率確認。日程調整継続。</li> </ul>
第 1 回 広報・HPWG	31 年 3 月 12 日	<p>1. 入会案内パンフレット改訂</p>	<p>1. 業者を交え、修正部分確認、画像データ追加・差替えを決定。3 月理事会での報告予定。</p>

第 282 回	31 年 3 月 12 日	<p>1. 人材育成検討 WG 報告 ・ライトメタルリクルート認知度向上策</p> <p>・H31 年度製品供与・貸与事業</p> <p>2. 規程・会員特典 WG 報告 ・投稿規程</p> <p>・Mater.Trans.投稿規程</p> <p>・著作権規程 ・執筆要領 ・軽金属希望の星賞推薦書</p> <p>3. HP・広報 WG 報告 ・英語ページ・大会講演・参加申込英語サイト ・入会案内パンフレット</p> <p>4. その他 ・引継事項</p> <p>・第 136 回春期大会懇親会缶ビール代 ・平成 30 年度事業報告書案 ・平成 31 年度事業計画書案 ・委員会出席率</p>	<p>1. 下記実施事項検討。 ・21 社 3 月 1 日 HP 掲載。学生会員への定期メール送信。 ・大型サンプルリスト見直し 4 月募集。</p> <p>2. 下記実施事項検討。 ・理事会指摘事項承認。追加改訂部分は差し戻し。 ・速報論文英訳投稿可案を差し戻し、金属学会意向確認を要請。 ・内容確認のため承認保留。 ・用語修正を承認。 ・会費支払済み確認追加を承認。</p> <p>3. 下記実施事項検討。 ・修正確認。未実施部分修正継続。 ・広報・HPWG 修正案確認、修正。</p> <p>4. 下記承認、報告。 ・総務委員長案について各 WG からの意見聴取。 ・7 社から寄付を承認。請求書発行。 ・総務委員会での確認依頼。 ・総務委員会での確認依頼。 ・出席率確認。</p>
---------	---------------	---	--

(3)企画委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第 5 回	30 年 4 月 11 日	<p>1. セミナー開催報告</p> <p>2. シンポジウム・セミナー企画案</p> <p>3. ロードマップからの新規シンポジウム企画案</p> <p>4. 見学会開催報告・新企画</p> <p>5. つま恋基礎講座</p> <p>6. 会員増強・テキスト電子化</p> <p>7. 第 107 回シンポジウムカラーテキスト世話人作成</p> <p>8. 講演者への質問票の対応</p>	<p>1. アルミ合金組織(中級編第 6 回・応用編第 4 回)アンケート回答結果、収支報告。応用編講演順番変更検討。</p> <p>2. 第 109 回(3D プリンタ)10 月、第 110 回(航空宇宙)11-12 月、111 回(リサイクル)平成 31 年 2 月 1 日開催。マグネシウムセミナーは地方開催企画。</p> <p>3. 溶湯処理、軽量材料、マグネ接合、鑄造凝固、チタン案次回報告。</p> <p>4. ヤマハ発動機見学会報告。次回川崎重工業見学案検討。</p> <p>5. 神戸製鋼所、昭和電工参加者に入会勧誘。</p> <p>6. 両 WG 進捗報告。</p> <p>7. 事務局要望連絡と著作権規程遵守チェックスケジュール調整。</p> <p>8. 事務局から世話人へ取り纏め要請。</p>
第 6 回	30 年 6 月 19 日	<p>1. 第 107 回シンポジウム開催報告</p> <p>2. 新規シンポジウム・セミナー企画案</p> <p>3. ロードマップからの新規シンポジウム企画案</p> <p>4. 見学会開催報告・新企画</p> <p>5. つま恋基礎講座</p> <p>6. シンポジウムテキスト著作権規程遵守チェック</p> <p>7. テキストカラー化</p> <p>8. 講演者への原稿・講演依頼</p>	<p>1. カラーテキスト採用、61 名参加。</p> <p>2. 第 109 回(3D プリンタ)10 月 5 日、第 111 回(リサイクル)平成 31 年 2 月 8 日開催。マグネシウムセミナーは関西 10 月、燕三条 10 月 24 日開催。</p> <p>3. チタン案提案、他企画は次回報告。</p> <p>4. 次回川崎重工業見学案検討。</p> <p>5. 神戸製鋼所入会勧誘お断り。</p> <p>6. 第 107、第 108 回シンポジウムテキストチェック実施報告。企画委員会独自の方法にて、講師に確認実施と決定。</p> <p>7. 印刷業者、部数など事務局に一任。</p> <p>8. 事務局から改定したテキスト原稿執筆要領・講演要領送付。</p>
第 7 回	30 年 8 月 29 日	<p>1. 第 108 回シンポジウム開催報告</p> <p>2. 新規シンポジウム・セミナー企画案</p>	<p>1. ビュッフェディスカッション実施、23 名参加。</p> <p>2. 合金セミナー入門編 11 月 2 日、中級編 1 月 11 日、応用編 2 月 1 日開催、維持会員参加費 15,000 円に値上。第 110 回</p>

		<p>3. ロードマップからの新規シンポジウム企画案</p> <p>4. 見学会開催報告・新企画</p> <p>5. シンポジウムテキスト著作権規程遵守チェック</p>	<p>(航空機)シンポジウム2月以降に日程変更。マグネシウムセミナーは燕三条 10月25日、関西 11月26日開催。</p> <p>3. 第112回(溶湯処理・品質)シンポジウム。他企画は次回報告。</p> <p>4. 川崎重工業見学案検討。</p> <p>5. 第109回シンポジウム実施。</p>
第8回	30年10月22日	<p>1. 第109回シンポジウム開催報告</p> <p>2. 新規シンポジウム・セミナー企画案</p> <p>3. 見学会開催報告・新企画</p> <p>4. シンポジウムテキスト著作権規程遵守チェック</p>	<p>1. 42名参加。</p> <p>2. 第110回リサイクル、第111回航空機、第112回溶湯処理・品質、第113回CFRPと軽金属、第114回鉄道車両、第115回マグネシウム接合シンポジウム計画。</p> <p>3. 1月11日(18日)川崎重工業見学。</p> <p>4. 講師PPT資料の引用事例作成。</p>
第9回	31年1月15日	<p>1. マグネシウムセミナー</p> <p>2. アルミニウム合金の組織セミナー</p> <p>3. 新規シンポジウム・セミナー企画案</p> <p>4. 見学会 車両関連:川崎重工業</p> <p>5. その他 ・シンポジウム配布資料作成例 ・引継事項 ・委員会出席率</p>	<p>1. 燕三条、東大阪開催報告。水戸開催企画。</p> <p>2. 入門、中級編アンケート結果報告。</p> <p>3. 110回(2月8日開催)他、115回まで世話人主担当選任、継続検討。</p> <p>4. 2月14日開催を計画。</p> <p>5. 下記、報告。 ・引用、出展などフォーマット作成。 ・3月末提出要請。今期実績追加。 ・出席率上昇するも、平均値以下。</p>
第10回	31年3月6日	<p>1. 第110回シンポジウム開催報告</p> <p>2. 川崎重工業見学会開催報告</p> <p>3. アルミニウム合金の組織セミナー開催報告</p> <p>4. 新規シンポジウム・セミナー企画案</p> <p>5. 見学会 車両関連:日立製作所</p> <p>6. その他 ・引継事項 ・電子化WG報告</p>	<p>1. 23名参加。</p> <p>2. 19名参加。</p> <p>3. 応用編26名参加。</p> <p>4. 第111回を9月に変更、第112回を6月14日開催を計画。マグネシウムセミナー(水戸)日程見直し。チタンセミナー東京開催、内容変更検討。</p> <p>5. 次年度開催計画。</p> <p>6. 下記、報告。 ・委員長案確認。 ・2月28日の総合計画委員会審議内容を確認。</p>

(4)編集幹事会・委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第602回	平成30年5月9日	<p>1. 軽金属6-7月号の進捗状況報告</p> <p>2. 校閲状況報告・確認</p> <p>3. 軽金属7月号掲載内容報告・確認</p> <p>4. 軽金属誌活性化状況報告</p> <p>1)規程・投稿促進G報告</p> <p>2)解説・会報G報告</p> <p>3)特集・連載G報告</p>	<p>1. 進捗状況を確認。</p> <p>2. 校閲状況を確認。</p> <p>3. 掲載内容を確認。</p> <p>4. 各G検討結果報告。</p> <p>1)Mater.Trans.投稿規程案、電子化チェックシート案、投稿規程改定案内チラシ案一部修正承認。投稿数増加策:毎月DM送信、編集委員投稿勧誘、ICAA16投稿勧誘。記事カテゴリー見直し検討。</p> <p>2)トップ会談:対談テーマ、切り口準備、スポット解説:企業保有製造設備紹介。</p> <p>3)時効析出今昔:一般公募。シミュレーション連載:来年6月開始、連載タイトル、掲載順案。</p>
平成30年度第1回編集委員会	平成30年5月27日	<p>1. 軽金属誌の現況</p> <p>2. 規程類</p>	<p>1. 投稿勧誘チラシ、現状を確認した。</p> <p>2. 投稿規程の改訂(速報論文、査読プロセス)、Mater. Trans. の投稿規程改訂(軽金属の解説をReviewまたはOverview</p>

			として英訳投稿可、速報論文の英語名を”Letter”)を確認した。 3. 内容を確認した。
第 603 回	平成 30 年 7 月 12 日	3. 特集号 1. 軽金属 8-9 月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属 9 月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 1) 規程・投稿促進 G 報告  2) 解説・会報 G 報告  3) 特集・連載 G 報告	1. 進捗状況を確認。 2. 校閲状況を確認。 3. 掲載内容を確認。 4. 各 G 検討結果報告。 1) 電子化ガイドラインに「引用と転載」追加検討。編集委員会規程は総務で保留のため新規出版物追加検討。記事カテゴリー一改定案。執筆要領改定。投稿規程・Mater. Trans. 投稿規程改訂案(解説和訳、英訳投稿可)。 2) トップ会談: 三菱重工業に代わり、川崎重工業に打診。スポット解説: 製造設備紹介の趣旨書作成後、講師依頼。 3) 時効析出今昔、ISMA 特集の担当編集委員決定。シミュレーション連載の執筆者内諾伺い、製造プロセス執筆者検討。チタン連載講座の商業出版承認。2019 年 5 月接合特集会告案
第 604 回	平成 30 年 9 月 12 日	1. 軽金属 10-11 月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属 11 月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 1) 規程・投稿促進 G 報告  2) 解説・会報 G 報告  3) 特集・連載 G 報告	1. 進捗状況を確認。 2. 校閲状況を確認。 3. 掲載内容を確認。 4. 各 G 検討結果報告。 1) 「引用と転載」について企業法務部門解釈参考にガイドライン修正。投稿規程・Mater. Trans. 投稿規程改訂案(解説に技術報告を追加し、和訳、英訳投稿可)。速報論文の問題点議論。 2) トップ会談: 三菱重工業、川崎重工業にかわり本田にホンダジェット打診。製造設備紹介連載の鋳造、ダイカスト、熱処理を先行して執筆依頼。依頼先調査必要。 3) シミュレーション連載の執筆依頼状況確認。
第 605 回	平成 30 年 11 月 5 日	1. 軽金属 12-1 月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属 1 月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 1) 規程・投稿促進 G 報告  2) 解説・会報 G 報告  3) 特集・連載 G 報告	1. 進捗状況を確認。 2. 校閲状況を確認。 3. 掲載内容を確認。 4. 各 G 検討結果報告。 1) 著作物の引用に関する法律および判例に基づいた基本的な考え方について、編集委員会規程改定案、第 135 回大会投稿促進チラシ案を議論。 2) トップ会談: SUBARU 打診。製造設備紹介連載の鋳造、ダイカスト、熱処理依頼先内諾状況報告。 3) ISMA 特集依頼状況確認。
平成 30 年度第 2 回編集委員会	平成 30 年 11 月 11 日	1. 軽金属誌の現況 2. 規程類  3. 特集号	1. 現状を確認した。 2. 投稿規程の改訂(カテゴリー見直し)、Mater. Trans. の投稿規程改訂(軽金属の技術報告を Technical Article として英訳投稿可)、著作権規程に関連した引用ガイドライン検討状況を確認した。 3. 内容を確認した。
第 606 回	平成 31 年 1 月 8 日	1. 軽金属 2-3 月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属 3 月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 1) 規程・投稿促進 G 報告 ・電子化 WG 報告	1. 進捗状況を確認。 2. 校閲状況を確認。 3. 掲載内容を確認。 4. 各 G 検討結果報告。 1) WG 経過報告。著作権財産権の利用に関する注意事項案内内容確認、学会内運用

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドライン</li> <li>・投稿数増加策</li> <li>・投稿規程</li> <li>2)解説・会報 G 報告</li>   <li>3)特集・連載 G 報告</li>   <li>5. 引継事項、委員会出席率</li> </ul>	<p>方法案検討。投稿優遇策に大会懇親会招待を提案。投稿規程総務修正案承認、速報説明修正。</p> <p>2)トップ会談：航空機メーカー再打診。維持会員のコア技術掲載検討。編集委員提案解説執筆依頼。</p> <p>3)数値シミュレーション連載の依頼状況確認。</p> <p>5. 3月末提出要請。出席率上昇、平均並みを確認。</p>
第 607 回	平成 31 年 3 月 8 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 軽金属 4・5 月号の進捗状況報告</li> <li>2. 校閲状況報告・確認</li> <li>3. 軽金属 5 月号掲載内容報告・確認</li> <li>4. 軽金属誌活性化状況報告 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)規程・投稿促進 G 報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子化 WG 報告</li> <li>・著作権規程(ガイドライン含む)改定案</li> <li>・執筆要領改訂案</li> <li>・投稿規程改定案</li> <li>・Mater. Trans. 投稿規程改訂(速報論文)</li> <li>・Mater. Trans. 英訳投稿期限延長</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>2)解説・会報 G 報告</li>   <li>3)特集・連載 G 報告</li> <li>5. 引継事項、委員会出席率</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進捗状況を確認。</li> <li>2. 校閲状況を確認。</li> <li>3. 掲載内容を確認。</li> <li>4. 各 G 検討結果報告。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)WG 経過報告。著作権規程他、総務委員会上申承認。速報論文の英訳投稿可否を金属学会に打診。金属学会からの英訳投稿期限 2 年への延長については、反対回答を決定。</li> </ol> </li>   <li>2)トップ会談取材記事確認。製造設備紹介連載の巻頭言を付けて 7 月開始。コア技術紹介は維持会員企業技術紹介に変更し、執筆依頼。</li> <li>3)数値シミュレーション連載 20 回決定。</li> <li>5. 委員長案に追加・修正要請。投稿数目標を掲載数に変更。</li> </ol>

(5)国際交流委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第 5 回	30 年 4 月 18 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的・ビジョン・戦略/戦術・目標・計画</li> <li>2. ALMA2018 開催準備、担当</li>   <li>3. ICAA18 準備 WG 報告</li> <li>4. 軽金属国際ワークショップ企画</li>   <li>5. 国際会議便り案</li> <li>6. 優秀英語ポスター発表賞</li> <li>7. 英語 HP に関する要望</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2 名報告。次回、各担当構想報告。</li> <li>2. 各国講師、会場決定。見学会スカイツリー、IHI 展示場、芝浦工大地域連携企業検討。次回、当日担当案。</li> <li>3. 熊井 ICAA 国際委員要望追加。</li> <li>4. フラウンホーファー講演会(接合・ casting)12 月 7 日決定。ドイツ、日本各 2 名講演、同時通訳・会場選定中。参加費、テキスト作成等決定。</li> <li>5. 今後の国際大会、執筆者案決定。</li> <li>6. 英語表彰状案作成。</li> <li>7. 総務委員会に要望提出し、回答待ち。</li> </ol>
第 6 回	30 年 7 月 3 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的・ビジョン・戦略/戦術・目標・計画まとめ</li> <li>2. ALMA2018 開催準備、担当</li>   <li>3. ICAA18 準備 WG 報告</li> <li>4. 軽金属国際ワークショップ企画</li> <li>5. 国際化ワークショップ開催報告</li>   <li>6. 国際化ミニ特集入稿状況</li> <li>7. 国際会議便り案</li> <li>8. 優秀英語ポスター発表賞</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際技術交流会来年 6 月開催準備(タイ国研との調整)協議。各担当構想報告は課題追加し、次回に延期。</li> <li>2. 9 日: Meeting、見学会、レセプションスケジュール決定。各国参加者打診。10 日: 講師に講演概要・プロフィール依頼、昼食会場、役割り分担決定。</li> <li>3. ICAA16 国際委員会で 2022 年日本誘致決定。</li> <li>4. 会場決定(ドイツ文化会館)。日本講演者選定中。会告案 8 月提出。</li> <li>5. テキスト配布。日本学術会議の材料工学委員会・材料連合協議会加盟検討。若手育成等々、課題追加。</li> <li>6. 20 編以上入稿。提出催促中もあり。</li> <li>7. 今後の国際大会、執筆者案決定。</li> <li>8. 審査方法説明。</li> </ol>

第7回	30年9月13日	<ol style="list-style-type: none"> <li>ALMA2018 開催準備</li> <li>優秀英語ポスター発表賞審査</li> <li>ICAA18 準備 WG 報告</li> <li>軽金属国際ワークショップ企画</li> <li>国際化ミニ特集巻頭言</li> <li>国際会議便り案</li> <li>英語 HP 充実</li> <li>台湾軽金属協会、台湾軽金属学会見学先幹旋要請</li> <li>目的・ビジョン・戦略/戦術・目標・計画、追加課題</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>概要、プロフィール原稿まとめ。レセプション英語使用。中国2名ポスター発表を英語ポスター会場で実施。</li> <li>審査方法確認、発表者へのアンケート実施。</li> <li>1年後の組織委員会、実行委員会キックオフスケジュール確認。</li> <li>費用試算、先方一部負担。チラシ作成し学側会員に送付。</li> <li>内容確認、9月号掲載27件。</li> <li>依頼状況確認。</li> <li>総務委員会検討状況報告。大会申込サイト、執筆要領の英語版必要。</li> <li>前者はアルミニウム協会紹介、後者は12月6日東洋アルミニウム、12月7日赤星工業見学、午後フ라운ホーファーワークショップ参加を提案。</li> <li>議論の時間がなく、10-12月に臨時委員会開催し、対応策まとめ。</li> </ol>
第8回	30年12月10日	<ol style="list-style-type: none"> <li>ALMA2018 開催報告</li> <li>第135回大会英語ポスター審査報告</li> <li>フ라운ホーファーワークショップ開催報告</li> <li>タイ講習会進捗</li> <li>台湾軽金属協会視察団受入キャンセル</li> <li>国際会議便り案</li> <li>英語 HP に関する要望</li> <li>ICAA18WG</li> <li>軽金属国際賞</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Meeting 議事録、開催報告、HP 掲載確認、ALMA2020 案。</li> <li>改善点議論。</li> <li>講演47名、ビュッフェ29名参加。</li> <li>6月21-21日開催案、費用検討。</li> <li>2019年度に延期。</li> <li>依頼状況確認。</li> <li>大会申込英語 HP 進捗報告。</li> <li>組織・実行委員会設置準備。</li> <li>2021年の学会70周年記念行事として検討。2月理事会上申予定。</li> </ol>
第2回 ICAA18 準備 WG	30年12月25日	<ol style="list-style-type: none"> <li>2022年誘致決定報告</li> <li>準備 WG 活動スケジュール</li> <li>開催日程案</li> <li>組織委員会、実行委員会構成</li> <li>プロシーディングス、論文投稿の方針</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6月19日 ICAA 国際委員会決定。</li> <li>2019年10月キックオフ予定。</li> <li>2022年9月4-8日を第1候補とし、第2候補は6月12-16日。</li> <li>委員長、主査案議論。</li> <li>アブストラクト、プロシーディングス(4-6ページ)、エクステンデッドアブストラクト(2-4ページ)の3様式を認め、Mater.Trans.への投稿促進策を検討。</li> </ol>
第9回	30年12月25日	<ol style="list-style-type: none"> <li>第2回 ICAA18 準備 WG 報告</li> <li>ワークショップ開催報告、アンケート結果</li> <li>英語ポスター賞採点検証</li> <li>活動に関する対応案報告</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>委員長・主査案、プロシーディングス・論文投稿方針説明。</li> <li>次回開催に向けて改善点議論。</li> <li>日本語ポスター受賞者レベルと同等であり、次回も同様実施。</li> <li>対応案について取りまとめ、学会誌に提言掲載を検討。</li> </ol>
第10回	31年2月22日	<ol style="list-style-type: none"> <li>軽金属国際賞の創設(理事会提案)</li> <li>タイ講習会進捗</li> <li>優秀英語ポスター発表賞</li> <li>英語 HP 改定進捗</li> <li>常設委員会引継事項・委員会出席率</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>上申内容確認。候補者リスト作成。</li> <li>1日開催案に変更し、支出削減。</li> <li>136回春期大会は前回同様実施。その後、大会運営委員会での審査に移行を計画。案作成。</li> <li>大会講演・参加申込、講演概要の書き方、研究部会紹介など英語ページ作成。</li> <li>3月末提出を依頼。</li> </ol>

(6)大会運営委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第4回	30年4月24日	<ol style="list-style-type: none"> <li>第134回春期大会確認事項 託児室等</li> <li>第135回秋期大会準備状況 会場案他</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>リクルート企画7社参加、託児室覚書締結中(コードモノイルクラシ)</li> <li>会場案と市民フォーラム講師、レセプション、ALMA など2.5日制対応説明。</li> </ol>

		<p>3. 企業 WG 報告</p> <p>1) 企業交流会改善策</p> <p>2) 軽金属企業研究会内容と出展依頼</p> <p>3) 第 135 回秋期大会企画</p> <p>4. 大会運営 WG 報告</p> <p>1) 電子化 WG 検討要請</p> <p>2) 第 134 回大会講演分類アンケート</p> <p>3) 第 135 回大会新規実施事項対応策</p>	<p>3. WG 検討事項報告。</p> <p>1) リクルート企画、企業交流会、企業招待講演セッション、ショートプレゼン見直し予定。</p> <p>2) 7 社参加、学生参加登録カード、事前メール連絡など実施。</p> <p>3) ポスター後の単独枠実施案検討。</p> <p>4. WG 検討事項報告。</p> <p>1) 概要集電子化対応策決定。参加費で電子版配布、冊子は別途購入。著作権規程遵守チェックシートは発表者申告内容確認実施。</p> <p>2) 題目修正、所要時間追記。回収ボックス設置、座長アナウンスにより回収率向上を図る。</p> <p>3) 優秀ポスター発表賞は日本語発表のみ審査に変更し、ダブル受賞回避。講演募集、参加募集会告案修正。レセプション式次第準備。</p>
第 2 回企業 WG	30 年 7 月 4 日	<p>1. 春期大会のリクルート企画アンケート・企業セッションまとめ</p> <p>2. 第 135 回秋期大会企画</p> <p>3. 今後の大会企画</p>	<p>1. リクルート出展企業の満足度高く、説明時間枠、ブース広さなど改善し、次回実施。企業セッションは講師選定に苦勞。</p> <p>2. リクルート企画と企業セッション(日本アルミニウム協会賞受賞企業 5 社)とし、製品・技術展示は見合わせ決定。</p> <p>3. 春秋大会のイベント内容決定は持越し、今後、ガイドライン、マニュアル作成。</p>
第 5 回	30 年 8 月 1 日	<p>1. 第 134 回春期大会の決算および反省点</p> <p>2. 第 135 回秋期大会の開催計画</p> <p>3. 第 136 回春期大会について</p> <p>1) 開催計画概要、予算、実行委員会名簿</p> <p>2) テーマセッション募集日程</p> <p>4. 企業 WG 報告</p> <p>5. 運営 WG 報告</p> <p>6. 男女共同参画委員会報告</p> <p>7. 若手の会、女性会員の会の報告</p> <p>8. 第 135 回大会プログラム編成について</p>	<p>1. 決算および反省点について報告。</p> <p>2. 資料に基づき報告、確認。金曜レセプション、ALMA 開催準備確認。</p> <p>3. 資料に基づき報告、確認。</p> <p>4. 第 134 回大会アンケート結果より、第 135 回大会でもリクルート企画開催。アルミニウム協会賞受賞企業招待講演セッション開催。</p> <p>5. 講演分類アンケート結果報告。第 135 回大会でも小分類見直しについて実施。</p> <p>6. 若手の会の男女共同参画委員会編入承認。関連規程改定案を総務委員会上申。</p> <p>7. 資料に基づき報告、確認。</p> <p>8. 175 件口頭発表を 6 教室にプログラム編成。座長、日本語ポスター 70 件、英語ポスター 12 件審査員担当決定。</p>
第 6 回	30 年 10 月 1 日	<p>1. 企業 WG 報告</p> <p>2. 運営 WG 報告</p> <p>① 運営 WG 課題対応</p> <p>② 国際交流委員会関連</p> <p>③ 男女共同参画委員会関連</p> <p>④ 講演概要集電子版ダウンロード準備状況</p>	<p>1. 135 回秋期大会リクルート企画ブース配置案決定、今後の企業交流会、HP アンケート対応策を次回検討。</p> <p>2. 下記報告、協議。</p> <p>① 講演分類小分類 1 用途のその他に用途限定せずを追加。概要チェックの結果、概要原稿の書き方、フォーマット修正必要。</p> <p>② 優秀英語ポスター発表賞審査、ALMA ポスター 2 件のポスター会場併設、レセプション式次第、英語申込サイト設置等、説明・要請。</p> <p>③ 136 回春期大会男女共同参画セッション会場確保要請。</p> <p>④ テスト画面で運用方法説明。</p>
第 7 回	31 年 1 月 29 日	<p>1. 第 135 回秋期大会の決算および反省点</p>	<p>1. 決算および反省点について報告。</p>

		<p>2. 第 136 回春期大会の開催計画</p> <p>3. 第 137 回秋期大会について</p> <p>1)開催計画概要、予算、実行委員会名簿</p> <p>2)テーマセッション募集日程</p> <p>4. 企業 WG 報告・討議</p> <p>1)第 136 回大会企業セッション内容</p> <p>2)リクルート企画アンケートと改善策</p> <p>5. 運営 WG 報告・討議</p> <p>1)WG 検討進捗 英語対応</p> <p>2)金曜集客策</p> <p>3)概要チェック(電子化 WG 報告)</p> <p>4)優秀英語ポスター発表賞審査結果検証</p> <p>5)論文投稿者特典:大会懇親会招待</p> <p>6. 男女共同参画委員会報告</p> <p>1)第 136 回大会男女共同参画セッション</p> <p>2)若手の会 第 137 回大会キャリアセッション</p> <p>3)女性会員の会</p> <p>7. 引継事項、委員会出席率</p> <p>8. 第 136 回大会プログラム編成について</p>	<p>2. 資料に基づき報告、確認。</p> <p>3. 第 137 回秋期大会実施内容決定。</p> <p>1)資料に基づき報告、確認。</p> <p>2)資料に基づき報告、確認。</p> <p>4. 第 136 回大会実施内容決定。</p> <p>1)北陸支部企業招待講演「富山大会でまるわかり!北陸発の軽金属産業」を実施。</p> <p>2)軽金属企業研究会継続。2 日間学生対応、ノベルティグッズ提供。</p> <p>5. WG 各担当から報告、討議。</p> <p>1)英語版 HP 申込サイト、概要原稿の書き方等、136 回から対応。</p> <p>2)反省事項と改善策継続検討。</p> <p>3)事務局での従来チェック継続。</p> <p>4)第 136 回大会も同様実施。</p> <p>5)第 137 回大会から実施、様子見。</p> <p>6. 両会からの報告を確認。</p> <p>第 136 回から一般講演セッションと同時に男女共同参画セッションを実施。チラシ配布を依頼。</p> <p>7. 委員長に作成依頼。</p> <p>8. 新講演分類にてプログラム編成。座長、ポスター審査員案を決定。</p>
--	--	---	--

(7)研究委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第 3 回	30 年 4 月 12 日	<p>1. 研究部会期末報告</p> <p>2. 新研究部会報告</p> <p>3. 電子化対応</p> <p>4. 平成 29 年度決算見込と平成 30 年度予算</p> <p>5. 規程、細則改定 成果物取扱、アドバイザー</p>	<p>1. 15 研究部会報告。</p> <p>2. 耐火物、アップサイクル部会報告</p> <p>3. 概要集電子化を参考にし、水素部会の電子化対応を検討。</p> <p>4. 予決算確認。</p> <p>5. 規程、細則案を総務委員会上申。</p>
第 4 回	30 年 6 月 15 日	<p>1. 研究部会期末報告</p> <p>2. 新研究部会報告</p> <p>3. 電子化対応</p> <p>4. 平成 30 年度部会費徴収</p> <p>5. 平成 31 年度新設部会検討</p> <p>6. ロードマップ</p> <p>①日本アルミニウム協会とのロードマップ 共同作成</p> <p>②CAE ロードマップ</p> <p>③書式統一</p>	<p>1. 超音波鑄造研究部会報告。</p> <p>2. 高強度アルミニウム合金部会、中高温域特性部会報告</p> <p>3. 研究部会報告書の著作権規程遵守チェックは部会長が部会執筆者からチェックシート、著作財産権譲渡書を受領する方法を選定。</p> <p>4. 6 月中に参加企業に請求書送付。</p> <p>5. 異種材料・界面研究部会の後継部会として自動車用マルチマテリアル接着技術研究部会発足予定。他の 12 部会の後継部会有無を確認し、WG で他の新設部会検討実施。</p> <p>6. ロードマップ WG で以下を実施予定。</p> <p>①2020 年ロードマップを 2019 年 6 月頃から共同作成。年内には技術項目など両者ロードマップの整合させるフォーマットなど検討。</p> <p>②再度、各ロードマップから抽出した CAE 関連のロードマップ作成依頼。</p> <p>③軽金属ロードマップ 2016 として編集。</p>
第 2 回研究部会新設 WG	30 年 9 月 7 日	<p>1. 来期部会設置スケジュール</p> <p>2. 13 部会后継部会検討結果と 8 月末部会申請内容確認</p>	<p>1. 12 月研究委員会、2 月理事会承認。</p> <p>2. 終了 1 部会(超音波鑄造)、後継部会設置 7 部会(押出、圧延、表面処理、水素、接合 ⇒接着、マグネ、組織形成予測)、検討中が 3 部会(凝固、チタン、多機能)、1 年延</p>

		<p>3. 新設部会検討 ①昨年検討部会案の見直し</p> <p>②新たに必要性が生じているテーマ等</p>	<p>長が 2 部会(腐食挙動予測、トライボロジー)</p> <p>3. 下記検討。 ①量子ビーム利用結晶解析技術部 会、3D イメージング部会、リサイカブルアルミニウム合金部会設置可否 ②鋳物・ダイカスト関係部会設置断念。</p>
第 5 回	30 年 9 月 28 日	<p>1. CAE ロードマップ見直し</p> <p>2. 後継部会設置申請</p> <p>3. 部会中間報告</p> <p>4. 部会延長申請</p> <p>5. 研究委員会規程、部会運営細則改定</p>	<p>1. 接合関係追加、ビックデータ化の効果等、追記修正。</p> <p>2. 押出、表面処理、水素、接着部会の概要報告。</p> <p>3.6 部会の中間報告について討議。</p> <p>4. 腐食、凝固部会の延長承認</p> <p>5. 理事会承認</p>
第 3 回研究部会新設 WG	30 年 11 月 16 日	<p>1. 後継部会設置申請</p> <p>2. 部会延長申請</p>	<p>1. 圧延、多機能、組織予測、マグネ後継部会概要報告。</p> <p>2. 新エネルギー、チタン、トライボロジー部会延長承認。</p>
第 6 回	30 年 12 月 12 日	<p>1. 研究部会新設 WG 報告</p> <p>2. 後継部会設置申請</p> <p>3. 研究部会延長申請</p> <p>4. 部会中間報告</p> <p>5. CAE ロードマップ見直し</p> <p>6. 日本アルミ協会とのロードマップ共同作成</p> <p>7. 平成 30 年度決算(見込み)と 2019 年度予算作成スケジュール</p> <p>8. 研究部会報告書 発刊時期確認と作成手順</p>	<p>1. 今期終了 13 部会について、5 部会が 1 年延長、6 部会が後継部会設置、2 部会は終了予定。</p> <p>2. 押出、圧延、水素、マグネ、組織形成予測の 5 部会の後継部会設置承認。</p> <p>3. チタン、トライボロジーの 2 部会の延長承認。</p> <p>4. 14 部会から中間報告。</p> <p>5. 他も含め、2018 年度版作成。</p> <p>6. 2020 年発刊予定。</p> <p>7. 1 月中旬作成依頼。</p> <p>8. 終了 8 部会の発刊予定確認</p>

(8)支部長会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第 5 回	30 年 5 月 27 日	<p>1. 支部長交代</p> <p>2. 平成 29 年度支部収支報告書および平成 30 年度支部収支予算書および第 1 四半期決算資料提出期限</p> <p>3. 中堅企業支援活動</p> <p>4. 今後の講演大会予定地</p> <p>5. 年間表彰スケジュール</p> <p>6. 希望の星賞規程改定</p> <p>7. 功労賞選考細則改定案</p> <p>8. 企画委員会マグネシウムセミナー</p> <p>9. 会誌支部特集</p>	<p>1. 北海道、東海支部長交代挨拶。</p> <p>2. 事務局より提示した資料確認。</p> <p>3. 平成 29 年度実績報告と H30 年度活動要請。</p> <p>4. 平成 32 年第 138 回春期大会までの予定地確認。香川大学内定。</p> <p>5. 学会賞・功労賞・功績賞の応募・推薦締切は 8 月 31 日。</p> <p>6. 総務案承認。同一指導教員からの推薦数制限を撤廃し、複数推薦を可とする修正案要請。</p> <p>7. 受賞対象明確化に反対。総務委員会案待ち。</p> <p>8. 関西支部の支援決定。</p> <p>9. 平成 31 年九州支部担当。</p>
第 6 回	30 年 11 月 11 日	<p>1. 平成 30 年度支部第 2 四半期決算</p> <p>2. 平成 31 年度支部費配賦額</p> <p>3. 支部活動について</p> <p>4. 今後の開催予定地</p> <p>5. 年間表彰スケジュール</p>	<p>1. 事務局より提示した決算資料確認。</p> <p>2. 配賦額承認。</p> <p>3. 軽金属希望の星賞 1 月 21 日理事会承認、功労賞規程改定保留、高橋記念賞推薦増加策、支部維持会員勧誘策、支部規程改定(中高生対象事業助成)を報告、議論。</p> <p>4. 139 回秋期大会首都大学東京決定。</p> <p>5. 大会での受賞講演のため、昨年度同様 4 月末、8 月末締切。</p>

第7回	31年2月28日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 支部長交代</li> <li>2. 中堅企業支援実績</li> <li>3. 大会 2.5 日制課題</li> <li>4. その他 <ol style="list-style-type: none"> <li>①入会案内パンフレット改訂</li> <li>②見学会</li> <li>③軽金属国際ワークショップ</li> <li>④引継事項</li> <li>⑤2019 年度支部長会日程</li> <li>⑥今後の大会開催予定</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 九州支部長 戸田裕之先生に交代。</li> <li>2. 今期実績報告。関西支部でマグネセミナー支援実施。</li> <li>3. 金曜行事集客策、その他イベントについての意見聴取。大会運営委員会へ答申。</li> <li>4. 下記内容報告、協議。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①4 月改訂、支部配布。</li> <li>②本部見学会との共催要請。</li> <li>③同上。</li> <li>④3 月末提出要請。</li> <li>⑤年 4 回開催予定。</li> <li>⑥2021 年第 140 回大会北海道開催(札幌サンプラザホテル)</li> </ol> </li> </ol>
-----	----------	--	---

(9) 参与会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第25回	30年7月26日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 見学会の実施</li> <li>2. 講演会の実施</li> <li>3. 委員会の開催</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊橋技術科学大学</li> <li>2. 「摩擦攪拌塑性流動を用いる革新的異種材料間接合技術」、「傾斜化技術を利用した軽金属と異種材料の接合」</li> <li>3. 参与会活動について</li> </ol>
第26回	30年11月28日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 見学会の実施</li> <li>2. 講演会の実施</li> <li>3. 委員会の開催</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東金属産業 3D プリンタ</li> <li>2. 「アルミ 3D における最新適用事例と海外動向」</li> <li>3. 参与会活動について</li> </ol>

(10) 男女共同参画委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第1回	30年4月23日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 規程確認・委員自己紹介</li> <li>2. 男女共同参画委員会設置経緯説明</li> <li>3. 男女共同参画学協会連絡会オブザーバー加盟の報告</li> <li>4. 今後の活動内容</li> <li>5. 第134回春期大会女性会員の会での PR の件</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員会新設に伴い、任務確認。</li> <li>2. 協議会、準備 WG 活動報告。</li> <li>3. 4 月より加盟手続き実施。</li> <li>4. 第136回春期大会での男女共同参画セッション開催、若手向けの仕事と子育て教育セッション検討、女性データ HP 掲載。</li> <li>5. 会長懇親会挨拶、女性会員の会で委員会新設紹介。</li> </ol>
第2回	30年7月20日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第136回春期大会セッション案</li> <li>2. 第137回秋期大会セッション案</li> <li>3. 協議会夏の学校参加</li> <li>4. 若手の会編入</li> <li>5. 今後の活動内容</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 土曜午後開催検討。講師3名。</li> <li>2. 若手の会合同キャリアセッション検討。</li> <li>3. 関係員様子見、来年展示検討。</li> <li>4. 規程改定案を大会運営へ提案。</li> <li>5. 女性データ HP 掲載、HP 退会理由調査、学生会員動向調査、会誌への男女共同参画記事掲載など検討。</li> </ol>
第3回	30年10月4日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 男女共同参画セッション</li> <li>2. 教育セッション</li> <li>3. 女子中高生夏の学校</li> <li>4. 学協会連絡会シンポジウム</li> <li>5. 女性比率データ HP 掲載</li> <li>6. 託児室</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第136回春期大会実施に向けた会場、講師調整状況報告。チラシ作成、12 月 HP 申込サイトオープン。担当決定。</li> <li>2. 男女共同参画委員会に編入した若手の会中心に第137回秋期大会で実施。</li> <li>3. 8 月参加報告と来年の出展検討。</li> <li>4. 委員長参加、情報入手。</li> <li>5. 掲載決定。</li> <li>6. 予算2回、40 万円確保、136 回から業者申込サイト利用。</li> </ol>
第4回	31年1月9日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第136回春期大会セッション</li> <li>2. 第137回秋期大会セッション</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「男女共同参画の今を語る」チラシ案、会場決定後2月 HP 申込サイトオープン。</li> <li>2. 若手育成と男女共同参画テーマ、女性(独身)、男性(共働き)講師検討。</li> </ol>

		3. 女子中高生夏の学校 4. 会員増強 WG 5. 学協会連絡会 要望書・声明書 6. 引継事項、委員会出席率	3. 重量比較サンプル、缶成形過程、アルミパウダーラメ、啓蒙冊子など展示計画。 4. 若手の会アンケートまとめ。学会所属メリット提供必要。 5. 「研究力強化に向けた女性活躍指標の整備に関する要望」と「大学等 高等教育機関の入学試験に対する声明」賛同回答。 6. 3月末提出を依頼。高い出席率確認。
--	--	---	--

(11)組織委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
平成 30 年度第 1 回	30 年 10 月 30 日	1. 平成 31・32 年度役員候補に関する件	1. 次期理事候補、会長、副会長候補案を協議。
平成 30 年度第 2 回	31 年 1 月 21 日	1. 平成 31・32 年度役員候補に関する件	1. 次期の役員候補および会長、副会長候補を選定、理事会に諮る。

[4]許可、認可、承認、証明に関する事項

連絡平成年月日	議事事項	履行状況
なし		

[5]契約に関する事項

契約締結平成年月日	契約内容	契約先・委託者
30 年 4 月 1 日	押出組織制御研究部会受託研究契約書	日本大学機械工学科 教授 星野倫彦
30 年 4 月 1 日	押出組織制御研究部会受託研究変更契約書	長岡技術科学大学技学研究院 准教授 本間智之
30 年 4 月 1 日	押出組織制御研究部会受託研究契約書	千葉工業大学工学部機械サイエンス学科 准教授 寺田大将

[6]寄付金に関する事項 寄付金支出はなし

[7]主務官庁からの連絡および報告事項

連絡平成年月日	議事事項	履行状況
なし		

[8]その他重要事項 特になし

[9]会員動向

( ) 内は内数

	名誉会員	永年会員	個人会員				合計
			正会員	学生会員	外国人	合計	
平成 31 年 4 月 1 日	53	98	1,535	248	(5)	1,783	1,934
平成 30 年 4 月 1 日	55	94	1,529	235	(7)	1,764	1,913
差引増減	△2	4	6	13	(△2)	19	21

正会員の内訳

	大学・高専等	公的研究機関	企業等	その他	合計
平成 31 年 4 月 1 日	446	92	958	39	1,535
平成 30 年 4 月 1 日	453	100	937	39	1,529
差引増減	△7	△8	21	-	6

特別維持会員・維持会員・年間購読の内訳

	特別維持会員	維持会員	口数								年間購読	
			10	8	6	5	4	3	2	1		合計
平成 31 年 4 月 1 日	5	137	2	0	0	0	1	3	16	115	180	62
平成 30 年 4 月 1 日	5	131	2	0	0	0	1	3	16	109	174	65
差引増減	-	6	-	-	-	-	-	-	-	6	6	△3

[10]事業報告の附属明細書 事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、附属明細書は作成していない。